

ハ海軍治罪法ニ從ヒ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第二十四條 召集ノ事一應其ノ局ヲ結ヒシトキハ海兵團長ハ不參ノ人名表ヲ作り各  
自姓名ノ上ニ不參事由ヲ記シ鎮守府司令長官ニ差出シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍  
大臣ニ進達スヘシ

附則

第二十五條 臨時召集ニ關スル旅費支給ノ準備、手續等ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 本令ニ於テ町村長トアル場合ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長トス  
様式第一 曲尺六寸

召集令狀

(何)備役

海軍(何官職) (姓 名)

召集ヲ命ス

表

明治(何)年(何)月(何)日

(何)鎮守府

裏

召集令狀ニ對スル心得

- 一 旅費ハ來 日 午前 午後 時ヨリ 於テ支給スヘシ
- 二 此令狀ヲ受取タルトキハ必ス二十四時間以内ニ發足シハ印形履  
歴表ヲ持參スル前記ノ場所ニ到リ旅費及旅費交附時日證票ヲ受  
取リ旅費ヲ受取ルトキ 一日行程少クトモ十二里詰 沿道ニ汽車汽  
車ハ里數ニ拘ララシテ以テ旅行シ鎮守府海兵團ニ參著シ此令狀、履  
歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ
- 三 發足ノ節ハ前記ノ印形履歴表ノ外ニ私服ヲ包ム爲メニ風呂敷ノ  
類ト之ニ附スル姓名札 成ル可ク木又ハ革等ニテヲモ持參スヘシ
- 四 召集地ニ到ル途程中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲  
メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其事由ト延滞セル時日ヲ記シ  
疾病ナレハ醫 汽車ノ事故ナレハ驛長若クハ會社、汽船ノ事故ナ  
レハ船長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其地ノ憲兵警察官島  
司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受ケ參著ノ時之ヲ海兵團長ニ  
差出スヘシ

五 此令狀ヲ受取リタルトキ傷疾疾病若クハ病後ニテ到底二十四時  
 間以內ニ發足シ能ハサルトキハ其事由書ニ市町村長ノ與書證印  
 ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ  
 届出テ且此令狀ヲ一先ツ島司郡區市長ニ返附シ置キ快愈ニ至ラ  
 ハ速ニ之ヲ前記ノ手續ニ依テ届出テ且直ニ島廳郡區市役所ニ到  
 リ再ヒ令狀旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ(一)ニ記セル如ク  
 海兵團ニ到ルヘシ

樣式第二

曲尺六寸二分

此召集令狀ノ配達ヲ受ケタルトキ名宛ノ本人犯罪失踪旅行寄留等ニ  
 テ家ニ在ラス二十四時間以內ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル  
 者ハ家族親族若クハ召集通報人其事由ヲ詳記シ憲兵 憲兵隊ヲ置カサ  
 警察ノ證認及市町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡區市長ヲ經テ海兵團  
 官長ニ届出ツヘシ召集令狀ハ之ノト同時ニ島 其召集令狀受領後逃亡セ  
 ル者アルトキモ亦同シ  
 何府(縣)何郡(區)何(町)村何番地  
 (何)備役  
 海軍(何官職) (姓) 名)殿  
 召集令狀在中

曲尺四寸二分

此處へ赤キ紙片ヲ貼附スシ

封筒糊封スヘカラス

裏

(何) 鎮守府

截切線

樣式第三

曲尺四寸

領收證

一 召集令狀

一通

右正ニ領收候也

明治(何)年(何)月(何)日午前

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令

三七九

(何)備役  
 海軍(何官職)(姓名)印

召集令狀到着ノ時若シ本人不在ナルトキハ家族親族若クハ召集通報人ニ於テ之ヲ受取り空白ノ處へ署名捺印スヘシ

本領收證ハ封筒ノ下ニ貼附シアルモノトス

様式第四

旅費交附時日證票

(何)備役  
 海軍(何官職) (姓名)

右(何)月(何)日午前(何)時  
 午後(何)時  
 定規ノ旅費ヲ交附セリ

明治(何)年(何)月(何)日

署名

様式第五

警報

海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事特ニ明治  
 月(何)日以後現役ヲ離レタル者ヲ召集ス  
 ルノ令アリタルトキハ之ヲ明記スヘシ

明治(何)年(何)月(何)日

●海軍省令第八號 (明治二十七年七月二日)

海軍臨時召集旅費支出規程

第一條 海軍臨時召集旅費ハ島司郡長北海道函館區及札幌區ハ區長以下同シ市長ニ於テ毎年三月一日現在スヘキ其管内在住ノ海軍豫備後備ノ臨時應召員ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集旅費概算表ヲ作り三月三十一日マテニ所轄鎮守府海兵團へ差出スヘ

シ鎮守府海兵團ハ前項概算表ノ金額ヲ調査シタル後鎮守府監督部ニ送付ス鎮守府監督部ハ該金額人員ノ合計表ヲ調製シ海軍省ニ届出テ概算表ハ海軍司計部ニ交付スヘシ

海軍省ハ毎年一回海軍臨時召集旅費概算表ヲ作り大藏省ニ送付ス此ノ概算表ハ翌年四月三十日マテ有効ノモノトス

第二條 北海道廳長官府縣知事ハ前條召集旅費ヲ應召者ニ給與スル爲メ便宜ノ地ヲ選定シ其ノ市町村名及第六條第一項ノ現金前渡ヲ受ケ仕拂ヲナスヘキ島司郡長若クハ收稅署長ノ官職姓名ヲ取調當該鎮守府監督部ニ豫メ通牒シ置キ爾後該吏員變更アルトキハ其時々通牒スヘシ

鎮守府監督部長前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ即時當該海軍司計部ニ通知シ又海軍省ニ報告スヘシ

第三條 海軍省ハ第一條ノ届書ニヨリ平時ニ於テ豫メ臨時召集旅費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ調製シ置キ戰時若クハ事變ニ際シ大藏省ヲ經テ要求書ノ裁定ヲ

得即時電信其他ノ方法ヲ以テ鎮守府監督部ヲ經テ海軍司計部ヘ配付豫算ヲ令達スヘシ

第四條 鎮守府監督部ハ前條ノ令達ニ接シタルトキハ臨時召集概算表ノ金額ヲ目的トシ現金前渡ヲ受クヘキ官吏ヘ旅費金額送付方ヲ當該海軍司計部ニ請求スヘシ

第五條 海軍司計部ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行スヘシ

第六條 現金前渡ヲ受クヘキ官吏ハ島司郡長收稅署長トス

島司郡長若クハ收稅署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏現金取扱規則ニ依リ現金ヲ取扱ヒ其ノ管内召集ニ應スヘキ豫備後備在住軍人ニ對シ各自ニ召集地ニ到ル定則ノ旅費ヲ支給スヘシ

臨時召集旅費支給ニ係ル事務ハ最モ迅速ヲ要ス故ニ出納官吏タルモノノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ分タス處辨スヘシ

第七條 島司郡長若クハ收稅署長ハ召集終レハ會計檢査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證憑書類ヲ當該海軍司計部ニ送付スヘシ

廿七年七月  
海軍省  
令第十號  
參看

第八條 應召員ニシテ行程ノ便宜ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケスシテ直ニ召集地ニ參着シタルトキハ所轄鎮守府海兵團ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得此場合ニ於テハ海兵團ヨリ當該現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ其旨ヲ通牒スヘシ

第九條 演習召集旅費モ此規程ニ準據シ取扱フヘシ

附則

第十條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但第一條ノ召集旅費概算表ハ本年ニ限り本規程到達ノ日ノ現在員ニ依リ取調一週日內ニ所轄鎮守府海兵團ニ差出スヘシ

●海軍省訓令第一號 (明治二十七年十一月八日)

北海道廳 府縣

本年七月海軍省令第八號海軍臨時召集旅費支出規程ニ依リ出納官吏ニ係ル左ノ件々ハ道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

一 出納官吏事故ニ依リ代理ヲ要スルトキ其代理者ノ命免

二 會計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ依リ要スル検査員立會員若クハ計算書調製セシムヘキ官吏ノ任命

●海軍省令第六號 (明治二十七年七月二日)

海軍豫備役後備役下士卒中寄留地又ハ乗組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願届手續左ノ通定ム

一 豫備役及後備役下士卒他廳府縣ニ寄留スル者其ノ地ニ戶籍ヲ有スル者ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ與書證印ヲ受ケ豫メ本籍鎮守府海兵團長ニ願出其ノ許可ヲ受クヘシ但本項ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ寫ニ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ與書證印ヲ受ケ原籍地ノ町村長(町村制ヲ施行セサル地ハ戶長)ヲ經テ郡長ニ島嶼ハ島司ニ市制施行地ハ直ニ市長ニ北海道函館區及札幌區ハ直ニ區長ニ届出且寄留地郡長島司ニモ届出ツヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ寄留地若シ他鎮守府志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

一豫備役及後備役下士卒海員トナリテ船舶乗組中ノ者ハ願ニ依リ其ノ船舶ノ船籍港若クハ平常運航ノ一港ニ戶籍ヲ有スル豫備役後備役下士卒ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應スルコトヲ得但其ノ願届ノ手續ハ前項ノ例ニ從フヘシ

本項ノ場合ニ於テハ召集ノ令アリシトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ(陸上ニ在ル者ニシテ船舶所有者若クハ其ノ代理人等最モ良シ)本項ノ願書中ニ其ノ者ノ住所姓名ヲ記入シ其ノ者ノ捺印ヲ受クヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ召集ニ應スル港地若シ他鎮守府ノ志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

●海軍省訓令第五十號 (明治二十年五月)

徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役ニシテ身上異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別ナク戶主又ハ親族ノ者ヨリ届出郡區戶長與書證印シ横須賀鎮守府へ届出スヘシ

●海軍省令第六號 (明治二十一年五月十五日)

海軍豫備兵歸家シタルトキハ其日ヨリ三日以内ニ戶長ニ届出戶長ハ之ヲ郡區長ニ届出可シ

海軍豫備兵後備兵外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其事由ヲ詳記シテ戶長ノ與書證印ヲ受ケ鎮守府海兵團へ願出許可ヲ得可シ

鎮守府海兵團ニ於テ前項ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ郡區役所ニ通知ス可シ

海軍豫備兵後備兵轉籍寄留又ハ失踪犯罪其他身上ノ異動アルトキハ戶長ノ與書證印ヲ受ケ戶主本人戶主ニシテ失踪犯罪其他ニテヨリ速ニ鎮守府海兵團へ届出郡區長ニハ其寫ヲ以テ届出可シ

廿一年九月  
省令第九  
十五號參  
看

各郡區役所ニ於テハ豫備役兵名簿後備兵名簿ヲ備ヘ置キ身上異動アル毎ニ記入シ置ク可シ

●勅令第八十七號 (明治二十五年十月六日)

海軍軍人結婚條例

第一條 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ上長官士官准士官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス

第三條 現役下士ハ年齢滿二十五歲以上ニ至ラサレハ結婚スルヲ得ス

現役卒ハ年齢滿二十五歲以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ得ス

第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齢十六歲以上ナルヲ要ス

附則

第五條 海軍武官結婚條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

●海軍省令第二號 (明治二十五年十月七日)

海軍一般

北海道廳 府縣

海軍軍人結婚願出手續

第一條 海軍軍人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ依リ將官並相當官ハ直ニ海軍大臣ニ差出シ上長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ

書式

結婚願

何府縣何國何郡市區何町村何番  
地華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生  
何年何月 何年何箇月

年月日

官(職) 姓 名 印

海軍大臣(所管長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長)姓名 印

身元證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地  
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生  
何年何月 何年何箇月

右ハ行狀端正ニシテ年齢前書ノ通相違無之候此段保證候也

年月日

何府縣何國何郡市區何町村長 姓名 印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長

官ニ届出ヘシ

●勅令第五十六號 (明治二十二年四月二十九日)

海軍下士服役條例

第一條 海軍下士ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

第二條 現役ハ六箇年ニシテ下士ニ任シタル日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ

現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

卒ノ服役年數ヲ通算シ現役十二箇年以上十六箇年未滿ノ者ハ現役ヲ通算シテ滿十

六箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム



卒ノ服役ヲ通算シテ現役滿十六箇年ヲ過タル者ハ兵役ヲ免ス

第三條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四條 現役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ本人ヲ要スルトキハ父母父母ナキトキハ親族若クハ近隣二人以上ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトアル可シ服役中養子分家又ハ絶家廢家再興他家相續人トナルタメ本文ノ事故ヲ生シタル者ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ豫備役ニ入りタル者ハ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第五條 現役中傷痍若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ豫備役ニ服セシム

第六條 現役中傷痍若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者其役ヲ免ス

第七條 服役期限己ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉

アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延ハスコトアル可シ

第八條 下士ノ服役ヲ退キタルトキハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條

第十條 艦内教授警吏ニシテ現役滿六箇年ヲ過キタル者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免ス

●海軍省令第二號 (明治廿八年八月廿四日)

望樓長望樓手任用試験規則

第一條 望樓長、望樓手ヲ志願スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ願書第一號ニ履歷書第二號ヲ添ヘ海軍省ニ差出スヘシ

第二條 望樓長望樓手ヲ志願スル者ハ任用ノ後滿三箇年以上服役スヘキ者ニアラサレハ出願スルコトヲ得ス

廿三年二月六號ニテ  
削除

第三條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ望樓長、望樓手ノ任用試験ヲ受クルコトヲ得ス

一 年齢二十年未滿ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケ其辨償ヲ終ヘサル者

四 品行不良ノ者

第四條 試験ヲ分チテ身體検査學術試験ノ二トス學術試験ハ身體検査ニ合格シタル者ニアラサレハ行ハス

第五條 學術試験科目ハ左ノ如シ

一 望樓長

讀書漢字交リ文 作文通俗文 算術四則ヨリ比例マテ

電信法 船舶信號法

一 望樓手

讀書漢字交リ文 作文通俗文 算術四則

電信法 船舶信號法

第一號書式 (用紙美濃二ツ折一通)

望樓長(望樓手)採用試験願

姓 名

何年何月何日生

年號月何年何箇月

私儀望樓長(望樓手)採用試験相受度履歷書相添此段奉願候也

年月日

本籍

現住所

姓 名 印

海軍省御中

第二號書式 (用紙美濃紙二ツ折一通)

履 歷 書

何府縣華士族平民

戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

姓 名

何年何月何日生

年號月何年何箇月

一本籍(國郡市町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記スヘシ)  
一現何地(右同)

一修學

一職業技藝等

一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事

一賞罰

一身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケス(身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケント雖

凡辨償ヲ完了セリ)

前書相違無之候也

何府縣何國何郡市區何町村

市區町村長 本籍ノ市  
區町村長

姓 名 印

年 月 日

●勅令第二百十七號 (明治二十六年十一月二十九日)

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條 生徒ノ學年ハ四箇年トス

但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

第四條 海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

海軍兵學校條例

廿七年九  
月勅令第  
百六十九  
號參看

廿九年勅令第四十號參看

校長	海軍大佐	一人
副官	海軍大尉	二人内一人ハ教官ヲ以テ兼補ス
教頭	海軍少佐	一人
砲術教官	海軍少佐	一人
水雷術教官	海軍大尉	三人
運用術教官	海軍少佐	一人
航海術教官	海軍大尉	三人
機關術教官	海軍機關少監若クハ大機關士	二人
普通學教官	海軍大機關士	一人
普通學教官	海軍造船大技士	一人
普通學教官	海軍教授	七人
監事長	海軍少佐	一人
監事	海軍大尉	九人内八人ハ教官ヲ以テ兼補ス

軍醫長 海軍々醫少監 一人

軍醫 海軍大軍醫 一人

軍醫 海軍少軍醫 一人

主計長 海軍大主計 一人

主計 海軍少主計 一人

本條砲術、水雷術、運用術、航海術教官ノ内一人ハ教頭ヲ以テ之ニ兼補ス

本條定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第六條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十二條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條 第五條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹 教員

三人

海軍機關師 教員

一人

海軍下士

二十八人内十八人ハ教員

海軍書記

五人

海軍卒

六十人

第十八條 生徒ハ年齡滿十六年以上十九年末滿ニシテ海軍將校タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要

ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ヲキキ者

三 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

三 附 則  
第二十四條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但明治二十六年十二月三十一日マテハ機關生徒ヲ置クコトヲ得

●海軍省達第四百十八號 (明治二十六年十二月二十日)

海軍兵學校規則

第二條 校長ハ教育上ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ教頭教官中ヨリ指名會同シ會議ヲ開キ之ヲ審議決定スヘシ

第二條 校長ハ海軍兵學校條例第二十三條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍大臣ニ具申スヘシ

第三條 校長ハ每學期及全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ生徒ノ學術品行等ノ實況ヲ審議シ其ノ優劣ヲ議決シ成績表ヲ調製ス可シ

第四條 校長ハ大試驗終末大試驗及卒業試驗ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ

添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五條 校長ハ每學期ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 校長ハ終末大試驗ニ及第シタル者ニ海軍大臣ノ認可ヲ得航海練習艦乗組ヲ命ス但練習艦ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第八條 校長ハ監事軍醫官主計官若干名ヲ被服糧食委員ト爲シ生徒ノ被服糧食ニ關スル事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第九條 校長ハ夏季冬季休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第十條 校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ毎年十一月生徒ニ入校ヲ命ス

第十一條 副官ハ庶務及官印ノ監守ヲ掌ル

第十二條 教頭ハ教務ヲ整理シ學術及教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申スヘシ

第十三條 教頭ハ試驗成績ニ意見ヲ附シ校長ニ差出スヘシ

- 第十四條 教官ハ學術上若クハ教授上ニ關シ意見アルトキハ教頭ニ開申スヘシ
- 第十五條 教官ハ試験ヲ行ヒタルトキハ試験成績ニ意見ヲ附シ教頭ニ出スヘシ
- 第十六條 監事長ハ生徒ノ容儀品行ヲ監督シ體育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ校長ニ具申スヘシ
- 第十七條 監事長ハ生徒ニ犯則者アルトキハ之ヲ取調ヘ意見ヲ附シ校長ニ具申スヘシ
- 第十八條 監事長ハ每學期ノ終ニ於テ生徒ノ考科表ヲ校長ニ差出スヘシ
- 第十九條 監事長ハ准士官以下ノ勤怠ヲ監督シ犯則者アルトキハ之ヲ取調ヘ校長ニ具申スヘシ
- 第二十條 監事長ハ下士以下ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス
- 第二十一條 兼務監事ハ生徒分隊ノ長ト爲リ隊員ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス
- 第二十二條 兼務監事ハ交番宿直ノ勤務ニ服ス

- 第二十三條 兼務監事ハ每學期ノ終ニ於テ隊員ノ考科表ヲ監事長ニ出スヘシ
- 第二十四條 專務監事ハ下士以下ヲ督勵シ紀律ヲ守ラシメ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且之ニ係ル事務ヲ掌理ス
- 第二十五條 生徒ハ分隊ニ編成ス
- 第二十六條 學期ハ四期トシ其ノ終ノ一期ハ航海練習艦ニ於テ教授ス學期ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル
- 第二十七條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス
- 第二十八條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年二月之ヲ告示ス
- 第二十九條 生徒ノ試験ヲ分チテ左ノ四種トス
- 一 小試験
  - 二 大試験
  - 三 終末大試験

四 卒業試験

第二十條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第三十一條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第五十二條第一圖ノ賞牌ヲ與フ

大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第五十二條第二圖ノ賞牌ヲ與フ

第三十二條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験若クハ終末大試験ニ落第スルカ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲戒則又ハ海軍懲戒令ニ觸ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第三十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十四條 大試験、終末大試験及卒業試験ノ成績表ニハ各學科ノ得點及席次ヲ掲載シ且品行點ヲ記入スルモノトス但品行點ハ席次ニ關係スルコトナシ

第三十五條 小試験ハ一學期ヲ適宜三回以上ニ分チ執行スルモノトス但シ第四學期

ニハ小試験ヲ行ハス

第二十六條 一學期間ノ小試験得點ハ之ヲ其ノ期大試験若クハ終末大試験ノ得點ニ合算ス

大試験ノ全點ハ其期各小試験ヲ通シタル合全點ト同數タル可シ

第二十七條 病氣其ノ他己ムヲ得サル事故アリ小試験ニ闕席スル者ハ別ニ試験ヲ行ハス而シテ大試験若クハ終末大試験成績ニ加フルニハ本科ハ大試験若クハ終末大試験ノ科目中ニアル該小試験ニ當ル細目ノ點數ヲ以テシ普通科ハ大試験若クハ終末大試験得點ヲ該一學期間ノ小試験回數ニテ除シタルモノヲ以テス

第二十八條 大試験ハ第一期第二期ノ終ニ於テ行フモノトス

第二十九條 大試験ニハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十條 大試験成績表ニ掲クル點數ハ大試験得點ト該一學期間小試験ノ得點トヲ合セ二分シタルモノトス

第四十一條 終末大試験ハ第三期ノ終ニ於テ行フモノトス



第四十二條 終末大試験ニハ本科ハ三學期中ニ教授シタル學科ヲ試験シ普通科ハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十三條 終末大試験成績表ニ掲クル點數ハ本科ニ在テハ前二期ノ大試験成績點數ニ終末大小試験得點ヲ加ヘ二分シタルモノトシ普通科ニ在テハ前二期ノ大試験成績點數ニ終末大試験成績點ヲ加ヘタルモノトス但終末大試験ニ於ケル本科全點ハ前二期大試験合全點ニ第三期小試験合全點ヲ加ヘタルモノト同數タル可シ

第四十四條 卒業試験ハ全學期ノ終ニ本校ニ於テ行フモノトス但航海術ノ實測ハ別ニ試験ヲ行ハス而シテ其ノ點數ハ練習中ニ得タル點數ヲ卒業試験成績ニ加フルモノトス

第四十五條 卒業試験ニハ第四學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十六條 卒業試験官ハ本校教官中ヨリ校長之ヲ命ス但試験問題ハ校長練習艦長ト協議ノ上定ムルモノトス

第四十七條 卒業試験ノ成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點實測點數モ含有スニ終末大試験

ノ成績點數ヲ加ヘタルモノトス

卒業試験全點ハ終末大試験ニ於ケル本科全點ノ半數トス但航海術全點數ノ三分ノ

二ハ實測點數ニ充ツ

第四十八條 大試験若クハ終末大試験ニ落第シタルモノ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ目途アル者ニハ一學期ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フモノトス

傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十九條 前條ノ延期ハ一學期ニ止マルト雖トモ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第五十條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ニ際シ傷

瘕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得  
 第五十一條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附属ス  
 第五十二條 本則第三十一條ニ掲クル賞牌ノ制式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ上衣右乳部  
 ノ下方ニ附著スルモノトス (圖略ス)

●勅令第二百十八號 (明治二十六年十一月二十九日)

海軍機關學校條例

第一條 海軍機關學校ハ之ヲ横須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育シ並ニ  
 海軍少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス  
 第二條 海軍機關學校ノ學科ヲ本科及專科ノ二種トス  
 本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船、造機及造兵ノ三科ニ分チ本科卒業後其  
 ノ科ニ特撰セラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス  
 第三條 專科ヲ修ムル海軍少機關士候補生ヲ專科生トス

廿七年九  
 月勅令第  
 百十七號  
 參看

第四條 生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス

但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

第五條 海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス

第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 海軍機關大監 一人
- 副官 海軍大機關士 一人
- 教頭 海軍機關少監 一人
- 教官 海軍機關少監 一人 教頭ヲ以テ兼補ス  
 海軍大機關士四人 海軍教授四人
- 監事長 海軍機關少監 一人 教頭ヲ以テ兼補ス
- 監事 海軍大機關士 四人 教官ヲ以テ兼補ス
- 軍醫長 海軍大軍醫 一人
- 主計長 海軍大主計 一人
- 主計 海軍少主計 一人

前項定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第七條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第八條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第九條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十一條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十二條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ専科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ其ノ體

育ノ事ヲ掌ル

第十三條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條 第六條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師 教員

二人

海軍下士 教員

四人

海軍書記

三人

海軍技手 教員

十一人内七人ハ兼務

第十八條 生徒ハ年齢十六年以上十九年未満ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願ス

ル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要

ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者及破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘ

サル者若クハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

- 第二十一條 生徒ハ入校ハ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
- 第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
- 第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
  - 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
  - 二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
  - 三 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者
- 第二十四條 専科生ハ須要ニ應シ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特撰ス
- 第二十五條 専科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ
- 第二十六條 海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附屬セシム
- 第二十七條 機關工練習所ハ掌機工及掌罐工ト爲ルヘキ機關手及火夫ヲ教育スル所トス
- 第二十八條 機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長 海軍機關少監 一人

教官 海軍大機關士 三人

部長 海軍大機關士 三人教官ヲ以テ兼補ス

第二十九條 機關工練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第三十條 機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第三十一條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ部員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第三十二條 第二十八條ニ掲グル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師 教員 二人

海軍下士 六人内三人教員

海軍卒 九人

- 第三十三條 機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生ト稱ス
- 第三十四條 機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
  - 一 年齢三十五年未滿ニシテ身體強健ナル者
  - 二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス
  - 三 品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌罐工タルニ堪フヘキ者
  - 四 卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者
  - 五 試験ニ合格シタル者
- 第三十五條 機關工練習生卒業シタルトキハ掌機工證狀若クハ掌罐工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試験ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ
- 前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌罐工ト稱ス
- 第三十六條 掌機工及掌罐工ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス
- 第三十七條 海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム

廿七年十一月廿九日勅令第四百九十四號參看

廿九年令第四百九十五號參看

- 第三十八條 技手練習所ハ造船造機及造兵ノ技手出身志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス
- 第三十九條 技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 長 海軍少技監若クハ海軍大技士
  - 教官 海軍造船少監造兵少監造船大技士造兵大技士ノ内 一人所長ヨリ兼務ス  
海軍造船技士造兵技士ノ内 二人
  - 前項定員ノ外本職アル者ヲ以テ教官ニ兼補スルコトヲ得
- 第四十條 技手練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責任ヲ負フ
- 第四十一條 技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
- 第四十二條 第三十九條ニ掲クル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手二人ヲ置ク
- 第四十三條 技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
  - 一 年齢滿二十一年以上三十年未滿ノ者
  - 二 品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者

三 海軍部内造船、造機及造兵ニ關スル工場ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者

四 身體檢査及學術試験ニ合格シタル者

五 卒業後滿十箇年間海軍ニ從事スヘキ者

第四十四條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セス

一 徵兵令第二十八條ニ該ル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ其相續人

第四十五條 技手生徒ニシテ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手トナルヘキ資格アルモノトス

第四十六條 技手生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第四十七條 第十七條第三十二條及第四十二條ニ掲クル職員ハ海軍機關學校及兩練

習所ニ通シテ勤務セシムルコトヲ得

附則

第四十八條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス

第四十九條 明治二十三年勅令第二百五十三號海軍機關學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校練習生ハ此ノ際志願ニ依リ直ニ機關工練習生ニ採用ス

第五十條 海軍造船工學校官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校生徒ハ技手生徒トス

●海軍省達第四百四十九號 (明治二十六年十二月三十日)

海軍機關學校規則

第一條 校長ハ教育上ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ教頭教官中ヨリ指名會同シ會議ヲ開キ之ヲ審議決定ス可シ

第二條 校長ハ海軍機關學校條例第二十三條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍大臣ニ具申スヘシ

第三條 校長ハ每學期及全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ生徒ノ學術品行等ノ實況ヲ審議シ其優劣ヲ議決シ成績表ヲ調製ス可シ

第四條 校長ハ專科生採用ノ達アリタルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上生徒卒業者中ヨリ須要ニ應ジ適任者ヲ指名シ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達ス可シ

第五條 校長ハ大試驗終末大試驗及卒業試驗ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達ス可シ

第六條 校長ハ每學期ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達ス可シ

第七條 校長ハ終末大試驗ニ及第シタル者ニ海軍大臣ノ認可ヲ得實地練習トシテ軍艦乗組ヲ命ズ但軍艦ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 校長ハ卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第九條 校長ハ監事軍醫官主計官若干名ヲ被服糧食委員トナシ生徒ノ被服糧食ニ關スル事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十條 校長ハ夏季冬期休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第十一條 校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ毎年十一月生徒ニ入校ヲ命ス

第十二條 副官ハ庶務及官印ノ監守ヲ掌ル

第十三條 教頭ハ教務ヲ整理シ學術及教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申ス可シ

第十四條 教頭ハ試驗成績ニ意見ヲ附シ校長ニ差出ス可シ

第十五條 教官ハ學術上若クハ教授上ニ關シ意見アルトキハ教頭ニ開申ス可シ

第十六條 教官ハ試驗ヲ行ヒタルトキハ試驗成績ニ意見ヲ附シ教頭ニ出ス可シ

第十七條 監事長ハ生徒ノ容儀品行ヲ監督シ體育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ校長ニ具申ス可シ

第十八條 監事長ハ生徒ニ犯則者アルトキハ之ヲ取調ヘ意見ヲ附シ校長ニ具申ス可シ

第十九條 監事長ハ每學期ノ終ニ於テ生徒ノ考料表ヲ校長ニ差出ス可シ

第二十條 監事長ハ准士官以下ノ勤怠ヲ監督シ犯則者アルトキハ之ヲ取調ヘ校長ニ

具申ス可シ

第二十一條 監事長ハ下士以下ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第二十二條 監事ハ生徒分隊ノ長トナリ隊員ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス

第二十三條 監事ハ交番宿直ノ勤務ニ服ス

第二十四條 監事ハ每學期ノ終ニ於テ隊員ノ考科表ヲ監事長ニ出ス可シ

第二十五條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ其事務ヲ分擔ス

第二十六條 生徒ハ分隊ニ編制ス

第二十七條 生徒ノ學期ハ四期トシ其第四期後半期ハ軍艦ニ於テ實地練習セシム  
學期ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル

第二十八條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日迄ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日迄ヲ冬季休業トス

第二十九條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年二月之ヲ告示ス

第三十條 生徒ノ試験ハ分チテ左ノ四種トス

一 小試験

二 大試験

三 終末大試験

四 卒業試験

第三十一條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第三十二條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第六十一條第一圖ノ賞牌ヲ與フ

大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第六十一條第二圖ノ賞牌ヲ與フ

第三十三條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験又ハ終末大試験ニ落第スルカ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲戒則又ハ海軍懲罰令ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ剝奪ス



第三十四條 卒業試験ニ及シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十五條 大試験、終末大試験及卒業試験ノ成績表ニハ各學科ノ得點及席次ヲ掲載シ且品行點ヲ記入スルモノトス但品行點ハ席次ニ關係スルコトナシ

第三十六條 小試験ハ一學期ヲ適宜ニ回以上ニ分チ執行スルモノトス

第三十七條 一學期間ノ小試験得點ハ之ヲ其ノ期大試験若クハ終末大試験ノ得點ニ合算ス

大試験ノ全點ハ其ノ期各小試験ヲ通シタル合全點ト同數タル可シ

第三十八條 病氣其ノ他已ムヲ得サル事故アリ小試験ニ闕席スル者ハ別ニ試験ヲ行

ハス而シテ大試験若クハ終末大試験成績ニ加フルニハ大試験若クハ終末大試験中

ニアル該科目ノ得點ヲ一學期間ノ小試験回數ニテ除シタルモノヲ以テス

第三十九條 大試験ハ第一期第二期及第三期ノ終ニ於テ行フモノトス

第四十條 大試験ニハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十一條 大試験成績表ニ掲クル點數ハ大試験得點ト該一學期間小試験ノ得點ト

ヲ合セ二分シタルモノトス

第四十二條 終末大試験ハ第四期前半期ノ終ニ於テ行フモノトス

第四十三條 終末大試験ニハ前三期及第四期前半期間ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十四條 終末大試験成績表ニ掲クル點數ハ前三期ノ大試験成績點數ニ第四期前

半期ノ小試験得點ト終末大試験得點トヲ加ヘ二分シタルモノトス但終末大試験全

點ハ前三期大試験合全點ニ第四期前半期小試験ノ合全點ヲ加ヘタルモノト同數タ

ル可シ

第四十五條 卒業試験ハ全學期ノ終ニ本校ニ於テ行フモノトス

第四十六條 卒業試験ニハ軍艦ニ於テ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十七條 卒業試験官ハ本校教官中ヨリ校長之ヲ命ス但試験問題ハ校長艦長ト協

議ノ上定ムルモノトス

第四十八條 卒業試験成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點ト終末大試験ノ成績點數

トヲ加ヘタルモノトス但卒業試験ノ全點ハ第四期前半期小試験合全點ト同數タル

可シ

第四十九條 大試験若クハ終末大試験ニ落第シタルモ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ  
自途アル者ニハ一學期ヲ延期修學セシム卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行  
フモノトス  
傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ヲ受クルコト能  
ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

第五十條 前條ノ延期ハ一學期ニ止ルト雖モ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ  
依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコト  
ヲ得

第五十一條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ニ際シ  
傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハザルトキハ臨時試験ヲ行フコト  
ヲ得

第五十二條 専科生ノ學期ハ二期トシ各學期ノ後半期ハ各専科生専門ノ工場ニ於テ  
實習セシム

第五十三條 専科生ノ試験ハ左ノ二種トス

一 夏季試験

二 卒業試験

第五十四條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第五十五條 夏季試験ハ毎年七月ニ於テ行フモノトス

第五十六條 卒業試験ハ全教程ノ終ニ於テ行フモノトス

第五十七條 卒業試験成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點ニ夏季試験ノ得點ヲ加ヘ

タルモノトス

第五十八條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第五十九條 夏季試験若クハ卒業試験ニ落第シタル者ニハ尙一學期間延期修學セシ  
ムルコトヲ得

第六十條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附屬スルコトヲ得  
 第六十一條 第三十二條ニ掲クル賞牌ノ製式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ常衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス (圖畧ス)

●勅令第六十八號 (明治二十二年五月二十一日)

海軍志願兵徵募規則

第一條 海軍兵役ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ服役セシム

第二條 志願兵ノ職名ハ左ノ如シ

水兵、軍樂生、水雷夫、火夫、工夫、木工、鍛冶、看病夫、厨夫

信號兵ハ所要ニ應シ水兵中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ轉職セシム其轉職ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條 志願兵ニ徵募スルトキノ年齢定限ハ左ノ如シ

一 水兵、火夫ハ滿十七年以上二十一年未滿

二 木工、鍛冶、看病夫、厨夫ハ滿十七年以上二十六年未滿

三 水雷夫、工夫ハ滿十七年以上三十二年未滿

四 軍樂生ハ滿十四年以上十七年未滿

第四條 左ニ掲クル者ハ志願兵タルコトヲ許サス

一 陸軍ノ豫備役後備役ニ在ル者

二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者

四 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

五 身代限リノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第五條 志願兵ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス現役ハ八ケ年ニシテ入營ノ日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四ケ年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス水雷夫ハ前項ニ依ラズ十二箇年間現役ニ服セシメ豫備役ニ服セシメス但第一年ニ於テハ六箇月以内第二年ヨリ十一箇年間ハ毎年二箇月以内在營セシメ其餘ノ時日ハ歸休セシム

廿九年勅令第三百三十一號參看  
 廿三年勅令第二百九十四號參看

海軍志願兵徵募規則

第六條 服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第七條 服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ若クハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

第八條 豫備兵ハ戰時或ハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス平時ニ在テハ演習ノ爲メ召集スルコトアルヘシ但餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第九條 服役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ滿十二箇年ニ至ル迄豫備役ニ服セシム其永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十條 水雷夫、工夫ヲ除クノ外志願兵ノ現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ一日金貳錢七厘ヲ給ス

第十一條 志願兵徵募ノ爲メ別表ノ如ク志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十二條 志願兵徵募ノ人員ハ毎年海軍大臣之ヲ定メ各徵募區ニ配當シ鎮守府ヲシテ徵募セシム

但一ノ徵募區ニ於テ所要人員ヲ充ス能ハサルキハ他ノ徵募區ヨリ其不足ヲ補充スルコトヲ得

附則

第十三條 舊規則ニ據リ徵募シタル者ノ服役年期ハ舊規則ニ據ル

第十四條 舊規則ニ據リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月以後其現後滿期迄一日金五錢七厘ノ家族扶助金ヲ給ス

(別表)

海軍志願 兵徵募區	所管鎮守府	府	縣	名
--------------	-------	---	---	---

海軍志願兵徵募規則

第一	橫須賀鎮守府	北海道 東京 神奈川 新瀉 埼玉 群馬 千葉 茨城 栃木 三重 愛知 靜岡 山梨 岐阜 長野 宮城 福島 巖手 青森 山形 秋田
第二	吳鎮守府	京都 大坂 兵庫 奈良 滋賀 福井 石川 富山 鳥取 島根 岡山 廣島 山口 和歌山 徳島 香川 愛媛 高知
第三	佐世保鎮守府	長崎 福岡 大分 佐賀 熊本 宮崎 鹿兒島

●海軍省令第五號 (明治二十二年六月二十日)

海軍志願兵徵募細則

第一條 海軍志願兵ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ徵募ス但軍樂生ハ橫須賀鎮守府ニ於

廿三年八月省令第八十三號  
廿六年一

テ徵募シ水雷夫ハ別ニ定ムル規則ニ依リ徵募ス

第二條 志願兵徵募ノ數額ハ前年十二月ニ於テ告示ス

第三條 前條ノ告示アリタルトキ地方長官ハ徵募ノ年ニ於テ海軍志願兵徵募規則第

三條ノ年齡ニ適スル者ヲシテ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島郡市

及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り二月十日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮

守府司令長官ニ移牒ス可シ

鎮守府司令長官ハ地方長官ヨリ志願人員表ヲ受ケタルキハ其寫ヲ海軍省ニ送付ス

ヘシ島司郡市長ハ志願人ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵徵募規則第四條ニ觸ル、者

ナキヤ否ヤヲ審査ス可シ

第四條

第五條 鎮守府司令長官ハ三月一日後左ノ諸官ヲ派出シ志願人ヲ檢査セシム

海兵團徵募官

軍醫官

削除

月全第一號  
廿九年全  
第五號  
廿三年全  
第二號  
廿四年全  
第一號  
號參看

徵募官ニハ主帳ヲ付シ軍醫ニハ看護手ヲ付ス

第六條 地方長官ハ徵募官ノ巡回ニ先タチ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシム可シ

第七條 地方長官島司郡市長ハ徵募官ノ巡回ニ際シ屬書記ヲ派出シ徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第八條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方廳管轄地ノ廣狹及志願人ノ多少ニ依リ検査ニ便ナル場所ヲ撰ミ概テ一郡市ニ一箇所ヲ設ク可シ

志願人十名ニ滿タサル郡市及一地方管轄地ヲ通シ十名ニ滿タサル地方ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス但地形ニ依リ召集ニ便ナラサルトキハ鎮守府司令長官ノ許可ニ依リ特ニ検査所ヲ設クルコトヲ得

第九條 徵募官ハ地方長官ニ協議シ検査所巡回日割及毎日検査ヲ行フ可キ人員ヲ定メ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人ニ達ス可シ

第十條 島司郡市長ハ徵募官ノ巡回日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順序ヲ定メ志願人ニ告知シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引纏メ検査所ニ出頭セシム可シ

検査呼出ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ出頭シ難キ者アルモ之レカ爲ニ日時ヲ遷延シ更ニ検査所ヲ開クコトナシ但甲志願人乙地検査所ニ至リ検査ヲ願フ者ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條 徵募官軍醫官ハ検査所ニ於テ志願人ノ身體ヲ検査シ合格不合格ヲ定ム可シ

第十二條 志願人身幹左ノ定尺ニ達シ身體完全強健精神異常ナキ者ヲ身体検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス

- 一 水兵、火夫、看病夫志願者ニ在テハ五尺二寸
- 二 軍樂生志願者ハ齒列齊正ニシテ十五年以上ニ在テハ五尺十五年未滿ニ在テハ四尺八寸

三 木工、鍛冶、厨夫志願者ニ在テハ五尺

第十三條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分テ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス

第十四條 木工、鍛冶ニ志願ノ者ハ一箇年以上該職業ニ服セシ者ニ限り採用ス其證明書ハ市町村長ヨリ巡回ノ徵募官ニ出ス可シ

第十五條 軍樂生、看病夫、厨夫志願ノ者ハ身體検査ニ合格スト雖モ讀書作文算術ノ試験ニ合格セサレハ採用セス讀書ハ平易ナル假名交リ文作文ハ通俗文算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程度トス

第十六條 身體ノ検査及讀書作文算術ノ試験ニ合格スト雖モ他ノ原因ニ依リ徵募官ニ於テ海軍兵ニ適セサル者ト認ムルトキハ採用セサルコトアル可シ

第十七條 検査合格ノ者ニハ一地方ノ検査ヲ了リタル後徵募官ヨリ島司郡市長ヲ經テ合格證書ヲ附與ス

合格證書ヲ附與セラレタル者採用以前ニ在テ轉籍、死亡、逃亡、公權停止、癡疾不具

等身上ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ島司郡市長ハ地方廳ヲ經由シ速ニ其人名及

異動ノ事項轉籍者ハ其轉籍地ヲ詳記スヘシヲ當該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ但轉籍者ニ在テハ

同時ニ其旨ヲ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

鎮守府海兵團長他鎮守府徵募區ニ轉籍セシ者ノ通知ヲ受ケタルトキハ徵募官ヲシテ其兵種及検査成績ヲ轉籍地ノ海兵團徵募官ニ通知セシムヘシ

第十八條 徵募官ハ徵募區内各府縣志願人ノ検査ヲ了ルトキハ前條ノ異動人員ヲ加除シ志願兵検査總人員表ヲ作り海兵團長ヲ經由シ鎮守府司令長官ニ進達スヘシ

第十九條 鎮守府司令長官ハ合格者ノ數ヲ率トシ比例ヲ以テ採用スヘキ人員ヲ各地方ニ配當シ海兵團長ヲシテ採用證書ヲ地方長官ニ送付シ且入營期日ヲ通知セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ配當人員表ヲ作り第十八條ノ志願兵検査總人員表ト共ニ海軍省ニ送付スヘシ

但所管徵募ニ於テ合格者ノ數所要ノ兵員ニ充タサルキハ他鎮守府司令長官ニ協

議シ補充スヘシ其採用証書送付方及入營期日通知ノ手續ハ補充ヲ要スヘキ鎮守府所屬ノ海兵團長ヲシテナサシムルモノトス

第二十條 地方長官採用證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ島司郡市長ヲシテ之ヲ各自ニ附與シ誓約書ヲ出サシムヘシ

第二十一條 地方長官前條ノ手續了リタルトキハ徵募兵員ヲ便宜ノ場所ニ集メ屬官又ハ市町村吏員ヲ附シ入營地ニ至ル期日ヲ計リ出發セシムヘシ但五人未滿ナルトキハ單行セシムルモノトス

第二十二條 兵員入營ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ海兵團長ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第二十二條乙 兵員入營スルトキハ直ニ身体檢査ヲ施行ス此檢査ニ於テ到底海軍兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ之レカ採用ヲ取消シ旅費ヲ給シテ歸郷セシメ海兵團長ヨリ採用取消書ヲ地方長官ニ送付シ之ト同時ニ本人ノ戶籍明細書及誓約書ヲ市町村長ニ返付スヘシ

廿七年七月省令第九號參看

前項ノ場合ニ於テハ更ニ補欠員ヲ同府縣内同兵種ノ合格者ヨリ徵募スルモノトス但同府縣内ニ於テ徵募スルコト能ハサルトキハ同鎮守府徵募區内ヨリ補フコトヲ得

補缺徵募兵員ノ採用証書送付方及入營期日ノ通知其他ノ手續ハ一般ノ徵募兵員ニ準ス

第二十三條 地方長官ハ市町村長ヲシテ採用セラレタル者ノ戶籍明細書ヲ作ラシメ

第二十條ノ誓約書ト共ニ海兵團長ニ送付スヘシ

第二十四條 附添人旅費並ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但檢査所ヘ往復ノ費用並ニ檢査ヲ受クル爲メ滞在ノ費用ハ自辨トス

第二十五條 本規則中市長ノ職務ハ東京市京都市大坂市ニ在テハ區長若クハ區書記之ヲ掌ル可シ

第二十六條 志願人員表合格證書採用證書誓約書及戶籍明細書採用取消書様式ハ左





第四様式 (用紙美濃紙四ツ切)

誓約書

海軍志願兵ニ御採用ニ付テハ御規則ヲ嚴守シ誓テ海軍ニ從事可仕候也

明治 年 月 日

氏 名 印

第五様式 戶籍明細書 (用紙美濃紙)

本管族籍	住 所	氏 名	戶主カカ	家族ノ名	其 生 年 月 日	生 年 月 日	家族ノ名	其 生 年 月 日

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

市町村長 氏 名 印  
海 軍

本管族籍	住 所	氏 名	戶主カカ	家族ノ名	其 生 年 月 日	生 年 月 日	家族ノ名	其 生 年 月 日


右之通相違無之候也

明治 年 月 日

市町村長 氏

名 印

第六様式 採用取消書 (用紙厚紙)

第何海軍志願兵徵募區  
府(縣)郡(市)町(村)住

氏 名

右採用ヲ取消ス

寸五尺曲

明治 年 月 日

何鎮守府海兵團

曲尺七寸

●海軍省令第三號 (明治二十二年六月十二日)

海軍志願兵家族扶助金支給規則

第一條 家族扶助金ハ志願兵ノ家族(附籍ハ除ク)アル者ニ限リ入營ノ日ヨリ現役ヲ離レタル日迄支給ス

第二條 一日金五錢七厘ヲ給スル者ニ再役ヲ許シタルトキハ再服役ノ日ヨリ一日金貳錢七厘ヲ支給ス

第三條 家族扶助金ハ毎月末日「十一月ハ本人所轄廳(所轄廳トハ艦船團其他下士卒ヲ直轄スル廳ヲ云フ以下之ニ同シ)ニ於テ支給シ其日休暇ニ當ルトキハ前日ニ操上ケ支給ス可シ

但服役場所ニ異動アルモ本文ニ同シ

海軍志願兵家族扶助金支給規則

四四五

二十三年  
二月省令  
第三號參  
看

第四條 准士官ニ昇級シタルトキハ辭令書拜受ノ日マテ免官免役セラレ死亡シ若クハ現役ヲ退キタルトキハ其當日マテ前條ノ支給定日ニ拘ハラズ其際支給ス可シ

第五條 單身ノ下士卒家族ヲ有シタルトキハ其報告本人所在ノ廳ニ到達ノ日ヨリ家族扶助金ヲ支給ス

家族アル下士卒單身ト爲リタルトキハ其報告本人所在ノ廳ニ到達ノ日迄支給ス

第六條 海軍部内ニ於テ會計ヲ異ニスル廳ヨリ借用シタル者ノ家族扶助金ハ本廳發程ノ翌日ヨリ歸廳ノ當日迄借用廳ニ於テ支給ス可シ

海軍部外ノ各廳へ貸與シタル者ニハ發程ノ翌日ヨリ歸廳ノ當日迄支給セス  
奏樂ノ爲メ一時貸與スル軍樂員ハ前二項ノ限ニアラス

第七條 家族扶助金ハ處刑罰收禁拘留若クハ遞傳護送中ノ者又ハ擅ニ艦船團若クハ職役ヲ離レタル者ニハ其當日ヨリ歸廳ノ當日迄之ヲ支給セス但無罪免訴若クハ無罪トナリタルトキハ之ヲ追給スヘシ

第八條 事故アリ追給若クハ追徴スヘキ者アルトキハ翌月以降ニ於テ支給若クハ控

除スルコトヲ得但會計ヲ異ニスル廳ニ渉ル追徴追給ハ各其廳ニ於テ追徴追給スヘ

キモノトス

第九條第十條

第十一條 死亡者若クハ逃亡者ニ支給スヘキ金額アルトキハ其家族ノ請求ニ據リ之ヲ下付スヘシ

第十二條 家族扶助金ヲ受クル者家族ニ異動アルトキ若クハ轉居轉籍シタルトキハ家族又ハ親族ヨリ地方廳ニ届出テ各地方廳ハ其都度其者在籍ノ鎮守府海兵團ニ報告ス可シ單身ノ下士卒家族ヲ有シタルトキ亦同シ

第十三條 海兵團ニ於テ前條ノ報告ヲ得タルトキハ直ニ本人所在ノ廳ニ轉送ス可シ  
附則

第十四條 本年五月三十一日迄ハ従前ノ例規ニ據リ横須賀鎮守府ニ於テ取扱フ可シ  
第十五條 舊規則ニ據リ一箇年金拾圓ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ據リ一日金貳錢七厘ヲ支給ス

二十三年  
四月省令  
第七號  
以刪除ス

第十六條 舊規則ニ據リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨリ九月三十日迄日割計算ヲ以テ志願兵徵募規則ニ據リ支給スルモノトス

第十七條 前條ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ據リ一日金五錢七厘ヲ支給ス

●海軍省達第六十八號 (明治二十七年五月一日)

(別紙)

第一書式 服役停年ニ基ク退職及免除恩給請求書  
但ニ通差出スヘシ(以下就レモニ通ラ差出スヘシ)

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日  
何々ニ依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(免役)被仰付候ニ就テハ軍人  
恩給法第何條相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也  
元(軍艦何々)(某團何々)(休職) (停職)

年月日

海軍大臣爵氏名殿

卒ハ舊所管長官ニ宛ツヘシ(以下之ニ同シ)

何府何市區 何町何番地 華族(平民)  
何縣何郡 何村何番地 寄留

官位勳爵 氏 名 印

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

第二書式 傷痍疾病ニ基ク恩給請求書

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日  
(傷痍)(疾病)ノ故ヲ以テ(退役)(免官)(免役)被仰付候ニ就テハ軍人  
恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也  
肩書第一書式ニ同シ

恩給出願書式

恩給出願書式

四五〇

年月日	官位勳爵	氏名	印
海軍大臣爵氏名殿			

附属スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

現認證書 (第五書式若クハ公文ノ寫若クハ口供書)

負傷證書 (第六書式)

診斷證書 (第七書式)

但公務ニ因ラサル傷痍疾病ニ係ルモノハ履歷書並診斷證書ノミ添付スヘシ

第二書式

傷痍疾病重症ニ趣キ恩給ノ増加ヲ請求シ若クハ其恩給ヲ更ニ請求ノトキ (用紙美濃紙)

恩給請求書

某儀

何年何月何日ヨリ(傷痍)(疾病)ノ故ヲ以テ(恩給及負傷増加恩給下賜)(現役ヲ離レ)候處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ赴キ別紙診斷書ノ通ニ候間御検査ノ上軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官位勳爵 氏名 印

海軍大臣爵氏名殿

附属スヘキ證據書類

病況書 原因經過療法ヲ詳記シタルモノ

診斷證書 (第七書式) 海軍軍醫官ノ診斷證書若シ軍醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限り地方醫師二名連署捺印シタルモノ

更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書 (第八書式)

現認證書 (第五書式若クハ公文ノ寫若クハ口供書)

負傷證書 (第六書式)

恩給出願書式

四五一

病況書 (同右)

診斷證書 (同右)

第四書式

(用紙美濃紙)

給助金請求書

某儀

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤續何年何月何日現役ヲ離レ候ニ就テハ軍人恩給法第何條相當ノ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官位勳爵 氏 名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

遺族ヨリ請求ノトキ

給助金請求書

故官位勳爵 氏 名

右現役中何年何月何日死去仕候ニ就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

故官位勳爵氏名遺族

年月日

氏 名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

備考 死者ニ對スル給助金ハ遺產相續人ニ賜ルヘキモノニ付嗣子又ハ戸主ヨリ請求スヘシ

第五書式

(用紙美濃十三行罫紙)

現認證書

所轄

官 氏 名

右者明治何年何月何日何時分何所ニ於テ俱ニ砲撃ノ際(何々演習ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)何々ニ由リ何物ノ爲メニ何部ニ何傷ヲ

受クルヲ現認ス

所轄官

年月日

氏名

名印

罹病ニ係ル現認證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

職官

氏名

名印

備考

本證書ハ勉メテ現況ヲ詳記スヘシ又現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニ之ヲ作ルヘシ

第六書式

(用紙美濃十三行罫紙)

負傷證書

所轄官

氏名

年齢

右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ何ノ際何ノ爲ニ何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒタルニ由リ診査スルニ何ノ部ニ於テ大サ幾許(何部ヨリ何部ニ亘ル長幾許幅幾許)深サ幾許ノ(何部ニ達スル)何創アリ創縁ハ銳利ニシテ(不正ニ挫斷シテ)創面ヨリ著シク出血シ(微ニ出血シ)創底ニ於テ何大ノ骨片折斷シテ移動スルヲ認ム(骨膜ハ僅ニ剝

離スレトモ骨折ヲ認メス或ハ何器官ニ損傷ヲ認メス)因テ止血法ヲ施シ(何動脈ヲ結紮シ)骨片ヲ拔除シ創面ヲ洗除シ創縁ヲ縫接シテ防腐繃帶ヲ施ス

右證明ス

明治 年 月 日

職官(軍醫官) 氏名

名印

罹病證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

第七書式

(用紙美濃十三行罫紙)

診断證書

所轄官

氏名

年齢

右者明治何年何月何日何所ニ於テ何ノ際何ノ爲ニ何ノ部ニ何ノ傷痍ヲ負ヒ何年何月何日ヨリ施療(何病院ニ入院施療)ノ處何年何月何日何ノ手術ヲ行ヒ何年何月何日傷痍治癒スト雖モ何ノ部位ヲ失ヒ(何部ノ知覺若クハ運動麻痺ヲ貽シ何ノ機能缺如シ若クハ幾許碍ケラレ或ハ周圍ノ癰痕若クハ關節面ノ癒着若クハ何ニ由リ何關節ニ強直若クハ攣縮ヲ貽シ全ク伸縮機能ヲ缺キ若クハ伸展及屈曲ノ角度幾許ニ





●大藏省令第二十四號 (明治廿三年十月一日)

本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受クルモノハ每期受領ノ片本人生存證書ヲ恩給証書ニ添ヘ差出スヘシ

●勅令第四百十五號 (明治廿七年八月十七日)

軍人恩給法第四十條ニ該當スル海軍候補生及生徒ノ恩給額ニ關シテ候補生ノ階級ハ判任官等級一等トシ將校生徒及機關生徒ノ階級ハ判任官二等トス

●海軍省令第五號 (明治廿八年十月廿九日)

明治二十七八年ノ戰役ニ關シ明治二十八年勅令第四百十五號ニ依リ海軍所屬員ニ賜與セラルヘキ一時賜金ハ海軍省ニ於テ交付ノ手續ヲナスヘシ但其金員ハ明治廿八年勅令第四百三十七號ニ據リ五拾圓未滿ノ端數ヲ除クノ外軍事公債證書ヲ以テ交付<sub>在ル</sub>給者ニハ地<sub>方</sub>ス受領者ニ於テ若シ現金ト交換ヲ望ムトキハ該軍事公債證書ニ交換請求<sub>在ル</sub>方廳ヲ經テ

書ヲ添ヘ其受領ノ當日限リ海軍省ニ願出ツ<sub>地方ニ在ル受領者ヘシ</sub>ハ地方廳ヲ經テ

●勅令第四百八十一號 (明治二十三年八月二十九日)

屯田兵條例

第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ其警備ニ充ツ

第二條 屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕稼ニ從事セシム

第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ招募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム

第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役八箇年後備役十二箇年トス  
後備役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及簡閱點呼ヲ爲ス

廿七年七月  
勅令第七  
九十四號  
參看

屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサル者ハ兵役ヲ免ス

第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ時變ニ際シ召集ス

第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第八條 明治二十七年以前ニ召募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム

一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

一 明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召募シタル者及明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ三箇年間後備役ニ服セシム

一 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ十二箇年間後備役ニ服セシム

第九條 前條ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

第十條 豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其ノ他特ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス

●陸軍省令第六號 (明治二十七年五月二十一日)

屯田兵召募規則

屯田兵條例 屯田兵召募規則

第一條 屯田兵ハ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヨリ採用シ毎年四月ニ於テ移住セシム

第二條 屯田兵召募検査ハ其年ノ召募區域内ニ於ケル大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ行フ

第三條 屯田兵召募區域及其人員ハ召募スヘキ前年ニ於テ之ヲ告示ス

第四條 屯田兵志願者ハ前條ノ告示ニ依リ其年ノ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三第四書式ノ履歷書、戶籍明細書、家族身體證明書ヲ添ヘ市町村長東京 都大坂ノ三市ニ在テハ區ニ差出スヘシ

第五條 市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願者ノ身元證明書ヲ作り願書ニ添ヘ府縣廳町村長ハ島司 郡長ヲ經テニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ更ニ

第六書式ノ連名簿ヲ作り九月三十日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附シ願書、履歷書、戶籍明細書及家族身體證明書ハ同時ニ屯田兵司令部ニ發送スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前條ノ連名簿ヲ受領シタルトキハ島司郡市長ニ協議シ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者ヲ引繼メ検査場ニ出頭セシムヘシ但志願者ニハ第二書式履歷書ノ寫ヲ携帯セシムヘシ  
志願者検査場ヘノ往復旅費並滞在日當ハ之ヲ給セス

第七條 屯田兵志願者願書ヲ差出シタル後自己及家族ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ書面ヲ以テ志願者ノ死亡失踪處刑 等ニ在テハ其家族ヨリ市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出ヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項ノ届書ヲ受領シタルトキハ之ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ

第八條 屯田兵召募検査終レハ大隊區司令官警備隊區司令官ハ第八書式ノ検査成績表不合格者ヲ除ク及第九書式ノ里程表ヲ作り十二月三十一日迄ニ到達ノ時日ヲ測リ之ヲ屯田兵司令官ニ送附スヘシ但里程表ノ調製ハ第十附表屯田兵集合地名表ニ基クヘ

シ

屯田兵司令官ハ檢査成績表及第五條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ト豫備員トヲ定メ其人名簿竝採用スヘキ者ノ集合地ヘ參集期日ヲ大隊區司令官警備隊區司令官ニ通知シ同官ハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ本人ニ告達シ又府縣廳ニ通知スヘシ

第九條 屯田兵移住ノ際ハ府縣知事吏員ヲ其集合地ニ派遣シ屯田兵受領員ニ引渡サシメ且其宿泊乘車乘船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第十條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ

一 年齡 滿十七年以上二十五年以下 召募年ノ四月一ノ者日ヲ以テ算ス

但陸軍各兵科豫備後備在役ノ下士上等兵ハ滿三十年以下ノ者

二 身長 五尺以上ノ者

但年齡二十年未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上

三 體質 強健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者

第十一條 前條ノ資格アル者ト雖モ左ノ事項ニ該ル者ハ採用セス

一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵

二 一家中耕稼ノ勞働ニ堪ユル強壯者 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時本人ヲ併セテ三人ニ滿タサルモノ 期迄ニ一箇月ニ滿タサル者ハ除ク

三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者竝其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者

四 素行修マラサル者

五 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

六 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

七 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

第十二條 屯田兵志願者ノ身體檢査ハ陸軍志願兵身體檢査規則ニ依ル屯田兵志願者身體檢査醫官ハ檢査場最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ豫メ檢査日割及檢査場ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警

備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ軍醫ノ派遣ヲ請求スルモノトス

前項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十三條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ家族<sup>成年以上ノ者</sup>ト共ニ第七書式ノ誓文書ヲ作り市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ取纏メ屯田兵司令官ニ送附スルモノトス

第十四條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ屯田兵司令部ヨリ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附スヘシ

大隊區司令部又ハ警備隊區司令部前項諸費ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十五條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ニシテ移住前戸主トナラサル者若クハ第

十一條ニ該當シ又ハ失踪死亡等ノ事故ヲ生シタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其採用ヲ取消シ豫備員ヲ以テ之ヲ補充シ其旨ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但其採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第十六條 疾病其他正當ノ事故ニ由リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ定メ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ戸主ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出ヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ就キ旅費日當ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ前項ノ許可ヲナストキハ其旨ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十七條 臨時屯田兵ノ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ屯田兵服役者ノ家族中男子ニシテ分籍ヲ志願スル者ノ内ヨリ採用スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ在テハ本規則第十條乃至第十三條ノ例ニ準據ス

第十八條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以內トシ一箇ノ重量ハ九貫目以內トス但左

ニ掲クル物件ハ携帯スルヲ許サス

一 長持若クハ之ニ等シキ體積ノモノ

二 大形ノ箆筒若クハ之ニ類スルモノ

三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類

四 甕若クハ臼類

五 危險物

六 以上掲クモノ、外取扱ノ困難ナルモノ

附則

第十九條 本令施行期限以前從前ノ規定ニ依リ願書ヲ府縣廳ニ差出シタルモノハ之ヲ受理ス

第二十條 市制町村制實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ

於テ之ヲ行フヘシ

第一書式 用紙美濃紙

屯田兵服役願

某儀

屯田兵志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申仍テ別紙履歷書戸籍明細書及家族身體證明書相添へ此段奉願候也

年號月日

族籍(戸主ニ非ル者ハ某子弟等)

產地

姓 名 印

年 號 月 日 生  
何年四月何年何箇月

屯田兵司令官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓名 印

一 志願者戸主ニ非ルトキハ戸主連署スヘシ





陸海軍現役兵海軍豫後備兵  
ナレハ何年何月日何役満期

兄(弟)(姉)(妹) 某

同上

右之通ニ候也

年號月日

本人 姓 名 印

右取調候處相違無之候也

年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓 名 印

一 戸主ト異ナル業務ニ從事スル者又ハ特別ノ技能ヲ有スル者ハ名ノ上ニ何

業ニ從事何々ヲ能クスル等記スヘシ

一 志願者戸主ニ非ルトキハ戸主連署スヘシ

第四書式

家族身體證明書

一 父 某 體格強壯ニシテ勞働ニ堪ユ○何歳ノ時何病ニ罹リシコトアリ

一 妻 某 體格稍虛弱○幼時ヨリ大患ニ罹リシコトナシト雖モ四年来歇斯的里症ヲ患フ○現今時々頭痛胃瘕ノ症アリテ爲メニ連日業務ヲ廢スルコトアリ

一 弟 某 體格強壯○生來大患ニ罹リシコトナシ○本月何日來肺義膜炎ニ罹リ目下何々ノ症アリ豫後ト知シ難シ

(以下前例ニ倣フ)

右診查ノ上及證明候也

年號月日 住所族籍 醫 姓 名 印

右之通ニ候也

族 籍 本人 姓 名 印

年號月日

一 本書ノ家族ハ十五歳以上六十歳未滿ノ者ニ限ル

第五書式

身元證明書

族籍(戸主ニ非ル者ハ某子弟等)

姓 名

一 身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ了ル)(家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ)

一 現今負債ナシ(現今幾許ノ負債アリト雖モ移住前ニ辨償シ得)

- ル見込ナリ)
  - 一 陸海軍現役兵海軍豫備兵後備兵ニ非ラス
  - 一 禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
  - 一 品行方正
  - 一 召募區域内ニ本籍ヲ定メ出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ
  - 一 入籍後出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ(養子ナレハ)
  - 一 家族中禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ有無(某何々ノ罪ニ由リ處セラレ或ハ目下拘留中、刑期中等)
- 右之通ニ候也
- 年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓 名印

第六書式

屯田兵志願者連名簿

產地	住所	族籍	家族人員			誕生	姓名
			大	中	小		
何縣何市	何府何市	士族	三	一	〇	何年何月何日	戶主 何某

第七書式 用紙美濃紙

何縣何郡	何縣何郡	平民	四	一	一	何年何月何日	某二男	何	某
何村	何町								

一 家族人員ノ區畫中大ハ十五歲以上六十歲未滿ノ者ヲ記シ中ハ六十歲以上及七歲以上十五歲未滿ノ者ヲ記シ小ハ七歲未滿ノ者ヲ記スヘシ

一 志願者戶主ニ非ルトキハ姓名ノ肩ニ戶主ノ續柄(某子弟等)ヲ記スヘシ

誓文

今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ誓テ兵農ニ從事可仕且服役中ハ決シテ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀仕間敷尙ホ左ノ條々堅ク相守リ聊カ違背不仕候仍テ家族連署誓文如件

一 服役中年齡滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ由リ免役ト爲ルトキハ子弟ハ養子弟等ニ於テ家名相續致シ本人ノ服役殘期

第八書式

間兵役ニ服シ可申事

二 戸主ハ家族ヲ訓戒誘導シ家族ハ戸主ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ戸主出務ノ間ハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ戸主ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムル様可致事

三 官給ノ土地ヲ墾成セサル間ハ一意農業ニ從事シ許可ヲ得スシテ他所ニ寄寓シ或ハ他ノ事業ニ従事スル等ノコト致ス間赦事

四 時々ノ御達竝ニ訓旨等ハ家族ニ至ルマテ嚴重ニ遵守可仕事年號月日

本人 何 某 印

同人父 何 某 印

同人母 何 某 印(拇印)

檢査成績表

住所	職業	兵役	年齢	等位	身長	教育ノ程度	參事ノ事項	姓名
何郡何村農	豫備	何年何月	甲(乙)	五尺二寸	上(中)下(不)	志操確實(何々)	何	某

何大隊區(警備隊區)

第九書式

- 一 職業ニ兼業アル者ハ之ヲ併セ記スヘシ
- 一 年齢ハ召募年ノ四月一日ヲ以テ計算スヘシ
- 一 教育ノ程度ハ高等小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ上トシ尋常小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ中トシ稍簡易ノ算筆ヲ爲シ得ル者ヲ下トシ全ク之ヲ能クセサル者ヲ不ト記スヘシ
- 一 參考事項ニハ本表ニ例ヲ示スノ外町村中名望アル者之ハ郷黨ニ指彈セラレ、者其他召募上參考トナルヘキモノト認ムル事項ヲ記スヘシ

里程表

住所	集落地	住所ヨリ集落地ニ至ル経路	同上里程	姓名
何郡何村	地名	何地ニ出テ何道通	何十里	何 某

何大隊區(警備隊區)



第六											
長	福	佐	小	鹿	宮	大	熊	高	徳	丸	松
崎	岡	賀	倉	島	崎	分	本	知	島	龜	山
對											
島											
長	博	門	鹿	細	大	三	高	徳	多	三	
崎	多	司	兒	島	分	角	知	島	度	ツ	
			島						津	ケ	
										濱	

- 一 本表中盛岡大隊區ノ内宮城縣登米本吉栗原ノ三郡ハ萩ノ濱ニ其他ノ郡市ハ青森トス
- 一 一師管中某大隊區ヲ限リ召募スルトキハ臨時集合地ヲ指定スルコトアルヘシ
- 一 人員寡少若クハ其他ノ都合ニ由リ必要ト認ムルトキハ屯田兵司令官一時本表ノ集合地ヲ變更スルコトヲ得

●法律第七十九號 (明治二十三年九月五日)

屯田兵土地給與規則

- 第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス
- 屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス
- 第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス
- 公有財産ノ管理用并ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス
- 第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

廿八年三月勅令第三十五號  
參看

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件併セテ之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルトキハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス

第七條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄退給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵又屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十二年マテニ召募シタルモノニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

●勅令第九十六號 (明治二十七年七月十一日)

屯田兵移住給與規則

第一條 屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料、旅費日當、運搬料トシテ左ノ金額ヲ給與ス

- 一 支度料 一戸ニ付五圓
- 二 旅費日當 一人一日ニ付三十錢 七歲未滿ハ半額
- 三 運搬料 一戸一日ニ付二圓六十錢

第二條 旅費日當及運搬料ハ一日行程ヲ十里詰トシ給與ス

一里以上六里未滿ハ半額、六里以上ハ全額ヲ給與ス但一海里ハ陸路十六町九分七厘五毛ニ改算ス

第三條 集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ官ニ於テ仕拂フモノトス

第四條 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ居残り若クハ途中ニ於テ滞在シ他日移住地ニ至ル者ノ旅費日當及運搬料ハ移住地迄順路ニ依リ給與ス

疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ途中ニ於テ滞在シタルトキハ一人一日ニ付三十錢七歳未満ノ日當ヲ給與シ其ノ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ醫師又ハ病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者ハ診斷料、治療費及入院料入院料ヲ給與スルトキハ日當ヲ給與セスハ實費ヲ給與ス但傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書、其ノ他ノ事故ニ由リタル者ハ憲兵、警察官若クハ市町村吏員ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五條 屯田兵移住シタルトキハ兵屋、井戸屬具、家具、夜具、農具、種物、扶助米及鹽菜料ヲ給與ス但井戸及屬具ハ實際ノ景況ニ由リ二戸以上ニ一箇ヲ給與スルコトヲ得

移住後滿三箇年間ニ於テ變災ノ爲メ前項ノ兵屋、家具、夜具及農具ヲ亡失若クハ破損シ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ更ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第六條 家具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 鍋 大小 各一箇
- 二 茶 碗 五箇
- 三 手 桶 一荷
- 四 小 桶 一組
- 五 擔 桶 一荷
- 六 柄 杓 一箇
- 七 燈 具 一箇
- 八 鐵 瓶 一箇

第七條 夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 四 布 三枚
- 二 三 布 二枚

第八條 農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

一 鍬 大小	各一挺
二 唐 鍬	大二挺 小一挺
三 砭	荒砭、中 砭、鎌砭 各一箇
四 山 刀	一挺
五 鑪	二挺
六 鑪	一挺
七 鋸 大小	各一挺
八 鎌 柴刈、 草刈	各一挺
九 筴	二十枚
十 熊 手	二挺
十一 培養桶	一箇

右ニ掲クル外四戸ニ付唐箕一箇六戸ニ付臼杵一箇ヲ給與ス

第九條 種物や一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但其ノ土地ニ適セサルトキハ他品ヲ換給

シ又時宜ニ依リ代金ヲ給與スルコトヲ得

- 一 麻種子 一斗
- 二 大 麥 一斗
- 三 小 麥 一斗
- 四 大 豆 一斗
- 五 小 豆 五升
- 六 馬鈴薯 四斗
- 七 蠶卵紙 四半枚

第十條 扶助米及鹽菜料ハ移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間左ノ區分ヲ以テ  
 毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日  
 數ニ乘シテ給額ヲ定ム

給 與 年 限	區 分	扶 助 米 一 箇 月 ノ 給 額
		一 人 一 箇 月 ノ 給 額





ル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得  
事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシム

第十四條 屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時限リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナスコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ二分シ若クハ二兵村分ヲ併メテ之ヲ給與スルモノトス

第十五條 兵村ニ給與シタル事業場、學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲メニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ屯田兵司令官之ヲ定ム

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條 屯田兵及其ノ家族移住途中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與ス

一 五圓

七歳以上ノ者

二 二圓五十錢

七歳未滿ノ者

附 則

第十八條 明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除クノ外ハ總テ従前ノ規程ニ依ル

●勅令第二百三十九號 (明治二十九年六月三日)

屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則

第一條 屯田後備役各兵村ニ兵村監視ヲ置キ其ノ兵村ノ開墾耕稼ニ關スル事務及下士兵卒ノ服役ニ係ル事務ヲ取扱ハシム

屯田兵移住給與規則

屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則

兵村監視ハ後備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條 兵村監視ノ職掌開墾耕稼ニ係ルモノハ師團長ニ下士兵卒ノ服役ニ係ルモノハ聯隊區司令官ニ隸ス

第三條 兵村監視ハ兵村ノ下士兵卒ノ動作及開墾耕稼ニ關スル事ヲ監視シ師團長ノ命令ヲ傳達シ又下士兵卒身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ聯隊區司令官ニ報告ス

第四條 屯田後備役下士兵卒三日以上十三日以下旅行セントスルトキハ兵村監視ノ承認ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ届出テ歸村シタルトキハ三日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第五條 屯田後備役下士卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ兵村監視ニ届出テ歸村シタルトキハ十四日以内ニ

兵村監視ニ届出ヘシ其ノ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦本條ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第六條 屯田後備役下士兵卒戶籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第七條 屯田後備役下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ近鄰戶主二名ノ證明ヲ受ケ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第八條 屯田後備役下士兵卒ヲ文官ニ採用セントスルトキハ當該官廳長官ヨリ第七師團長ノ承認ヲ受クルモノトス

屯田後備役下士兵卒ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル爲メ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ要スルトキ亦前項ニ同シ但其ノ事故止ミタルトキハ第七師團長ニ通知スヘシ

第九條 第四條又ハ第五條ノ規程ニ違背シ及第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 第五條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十一條 屯田兵後備役下士兵卒師團長ノ命令ニ服従セス又ハ兵村監視ノ職務ヲ妨害スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

附則

第十二條 本規則ハ隊伍ニ編入セサル屯田豫備役下士兵卒及其ノ兵村ニ適用ス但此ノ場合ニ在テハ兵村監視ハ豫備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第十三條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●陸軍省令第二十六號 (明治廿七年十二月二十八日)

死傷者手當金給與規則

第一條 明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別

ニ從ヒ書類ヲ具シ居住地所管ノ師團長又ハ屯田兵司令官ニ願出ツヘシ

死亡者

一 願書(第一書式) 履歷書、戶籍書寫、死亡報告書又ハ軍醫死亡證書若クハ主治醫死亡證書

傷疾疾病者

一 願書(第二書式) 履歷書、軍醫診斷書又ハ主治醫診斷書

第二條 師團長又ハ屯田兵司令官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ陸軍大臣へ上申スヘシ

第三條 本令第九條ノ死者遺族ハ同戶籍内ニ在ル寡婦、孤兒、父母、祖父母、兄弟、姉妹等トス

但手當金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下本文ノ順次ニ依ル

第四條 本令第十條ニ掲クル慰勞金ハ所屬長官審ラカニ事實ヲ調査シ其金額ヲ定メ意見ヲ具シ順次陸軍大臣へ上申スヘシ

第五條 本令第一條第二項ニ該ル區域ハ特設部及特設隊要塞砲兵隊ニ屬スルモノトス

第六條 本令第二條傷痍疾病ノ等差ハ明治二十五年當省達第九十九號陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ヲ適用ス

第七條 本令第三條第四條第五條士官下士ニ準スヘキ職務ノ區分雇員ニ在テハ士官下士ノ職務ヲ命シタル者ハ士官下士ニ兵卒ノ服スヘキ役務ニ從事シタル者ハ卒ニ準シ船舶ノ船員鐵道従事員ニ在テハ左ノ區分ニ依ル

船舶船員士官ニ準スヘキ者

一 百噸以上ノ船長、同運轉手、同機關手、同事務長

同下士ニ準スヘキ者

一 百噸未満ノ船長、同運轉手、同機關手、同事務長、水夫長、事務長、大工、楫取、油差、航海科生徒、機關科生徒

同卒ニ準スヘキ者

一 倉番、水夫、火夫、石炭夫、ランプ番、小使、料理人

鐵道従事員下士ニ準スヘキ者

一 驛長、助役、豫備助役、機關庫主任、保線手其他之ニ等シキ職務ニ従事スル者

同卒ニ準スヘキ者

一 貨物掛、小荷物掛、車長、電信掛、豫備電信掛、驛長書記、機關方、保線助手其他之ニ等シキ職務ニ従事スル者

第八條 本令附表備考ニ掲クル治療費ハ所屬部隊長軍醫診斷證書ニ依リ其金額ヲ定メ適宜支給スヘシ

第一書式 (用紙美濃白紙正副二通)

弔祭料並遺族扶助料願書

雇員(傭人) 故 姓 名

何年何月日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別



求スヘシ

第二條 鎮守府司令官長官若クハ所管長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ルトキハ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 扶助料又ハ弔祭料ヲ受クヘキ遺族ハ死者ト同戶籍ニアル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹トス

扶助料又ハ弔祭料ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ給ス以下前項ノ順次ニ依ル第四條 慰勞金ヲ給與セントスルモノハ所屬長其勤勞ヲ考查シ之カ金額ヲ定メ意見ヲ附シ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

第五條 勅令第六十四號第一條第二項ノ戰地ニ非ラサルモ公務ノ爲メ死傷シタルモノ、區域ハ左ノ如シ

- 一 出征事務ニ關シ戰地ニ往復スル者
- 一 出征事務ニ關シ使用スル船舶ニ從事スル者
- 一 戰備完成ノ艦船艇ニ從事スル者

一 防禦事務ニ關シ其業務ニ從事スル者

一 臨時特設部所ニ屬スル者

一 前諸項ノ外出征事務ニ關シ臨時ニ生シタル業務ニ從事スル者

第六條 勅令第六十四號第四條ノ傷痕疾病等差ヲ定ムルハ海軍軍人傷痕疾病恩給等差例ヲ適用ス

第七條 勅令第六十四號第三條第四條第五條ノ軍艦乘組備人並ニ官用船舶船員ニシテ士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分ハ左ノ如シ

士官ニ準スヘキ者	事務員	從僕
船長	通辨	剃夫
運轉手	大工	倉番
機關手	楫取	水夫
事務長	油差	火夫
下士ニ準スヘキ者	航海科生徒	石炭夫

機關手心得若クハ見習

機關科生徒

ランプ番

運轉手心得若クハ見習

卒ニ準スヘキ者

小使

水夫長

割烹

料理人

第八條 自己治療ヲ許可シタル傷痍疾病者ニ給スル治療費ハ所屬長ニ於テ軍醫若クハ主治醫ノ診斷書ニ依リ適宜金額ヲ定メ支給スヘシ

第一書式 用紙美濃紙正副二通 弔祭料並扶助料請求書

何 職 故 氏 名

右何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日死亡致候就テハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ相當ノ弔祭料並遺族扶助料下賜相成度別紙證據書類相添此段請求候也

元海軍何々所屬

何府何市區何町何番地華族(平民)

何府何市區何町何番地寄留

元何職故氏名寡婦(孤兒父母祖父母兄弟姉妹)

年 月 日

氏 名 印

親 戚 氏 名 印

親 戚 氏 名 印

親戚ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署スヘシ

職 爵 氏 名 殿

前書ノ通相違無之候也

年 月 日

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

附屬スヘキ證據書類

履歷書

戸籍書寫

死傷者手當金給與細則



死傷者手當金給與細則

現認證書若クハ公文寫

負傷證書若クハ罹病證書

軍醫死亡證書又ハ主治醫死亡證書若クハ死亡報告書

第二書式 用紙美濃紙正副二通

手當金請求書

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)何年何月何日何病院ニ入院ノ末解雇(解備)セラレ候就テハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ相當ノ手當金下賜相成度別紙證據書類相添ヘ此段請求候也

元海軍何々所屬

何府何市區何町何番地華(族)平民

何縣何郡何市區何町何番地寄留

元何職 氏 名 印

職 爵 氏 名 殿

年 月 日

前書之通相違無之候也

年 月 日

本籍(寄留地)市區(郡)町(村)長 氏 名 印

附屬スヘキ證據書類

履歷書

現認證書若クハ公文寫

負傷證書若クハ罹病證書

軍醫診斷證書又ハ主治醫診斷證書

● 閣令第九號 (明治二十七年十二月十四日)

勳章年金支給細則

第一條 勳章年金ヲ賜フ者ニハ賞勳局總裁年金證書ヲ作り之ヲ授與スヘシ

第二條 賞勳局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職、氏名、功級若クハ勳

死傷者手當金給與細則 勳章年金支給細則

等、年金額證書ノ番號授與ノ年月日並年金支給主管ノ地方廳ヲ大藏省ニ通牒シ同省ハ之ヲ該地方廳ニ通知スヘシ

第三條 年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ日附六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス

年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ半額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ全額ヲ給ス

第四條 年金ハ半額ヲ毎年六月十二月ノ兩回ニ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ支給ス

第五條 金鵄勳章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金支給ノ期ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ヲ以テ終リ其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル

第六條 年金受領者年金ヲ受取ラントスルトキハ年金證書ヲ當該官吏ニ示シ受領者タルコトヲ證明スヘシ

第七條 年金ハ受領者ノ請求ニ依リ其ノ本籍地又ハ寄留地ノ地方廳ニ於テ支給スヘシ

シ年金證書ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ支給ヲ受クヘキ地方廳ヲ指定シタル書面ヲ賞勳局ニ差出スヘシ

第八條 年金受領者年金支給主管廳ノ轉換ヲ要スルトキハ現主管廳ニ届出ヘシ現主管廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ新主管廳ニ通知シ其ノ旨ヲ賞勳局及大藏省ニ通報スヘシ

第九條 年金受領者死亡シタルトキハ遺族又ハ親戚ヨリ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其證書ヲ收メ賞勳局ニ還納スヘシ  
金鵄勳章年金令ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス

年金證書還納アリタルトキハ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十條 遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ

- 一 寡婦
- 二 孤兒
- 三 父
- 四 母
- 五 祖父
- 六 祖母

孤兒數人アルトキハ家名相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ

第十一條 此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ

第十二條 年金ヲ繼受シタル者死亡シハ戸籍ヲ去リ又ハ公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタルトキハ第十條ノ順序ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ者ニ之ヲ賜フ

年金ヲ繼受シタル寡婦再婚シタルトキ又ハ孤兒年齢二十歳ニ達シ若クハ結婚シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條 年金ヲ繼受シタル者年金支給ヲ受ケサル前ニ於テ前條ノ事故生シタルトキハ其ノ期ノ年金ハ次ノ繼受スヘキ者ニ賜フ

第十四條 年金ヲ繼受セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書（後見人アレハ後見人連署スヘシ）ニ親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長戸長トス以下之ニ倣フ）ノ證印ヲ受ケ且市町村長ノ證明シタル戸籍ノ寫ト下年金證書トヲ添付シ年金支給主管ノ地方廳ニ差出スヘシ

地方長官前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ査覈シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第十五條 賞勳局總裁ハ前條ノ願書ヲ審査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ年金支給主管ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十六條 遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル

第十七條 勳章ヲ有スル者犯罪ノ訴ヲ受ケ拘留（保釋責付亦同シ）セラレタルトキハ拘留ノ日ヨリ放免ノ日迄年金ノ支給ヲ停ム

榮譽汚辱ノ所爲ニ依リ勳章ヲ褫奪セラレタル者ハ其ノ褫奪ノ日ヨリ年金ノ支給ヲ罷ム

輕禁錮以下ノ刑ヲ受クルモ勳章褫奪ニ至ラサル者ハ其ノ犯罪ノ許ヲ受ケ拘留セラレタル日ヨリ刑期終リタル日迄年金ノ支給ヲ停ム

第十八條 年金受領者失踪シタルトキハ其ノ踪跡分明トナリタル後失踪中ニ受取ル

ヘキ年金ヲ支給ス

年金受領者失踪中年金ノ支給ヲ停罷セラルヘキ所爲アリト認定スルトキハ年金支給主管ノ地方廳ハ年金ノ支給ヲ猶豫シ其ノ旨ヲ賞勳局ニ具申スヘシ

第十九條 年金ノ支給ヲ罷メラレタル者ニハ褫奪以前ノ分ヲ支給シ其停メラレタル者ニハ其ノ間ノ分ヲ控除シテ之ヲ支給シ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス  
年金ノ支給ヲ停罷セラレタル者其ノ停罷以前ノ分ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ年金支給ノ期月拘留若クハ刑期中ニ方ルトキハ次回ノ期月ニ於テ之ヲ支給ス

第二十條 水火災盜難等ニ由リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ賞勳局ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作り其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ該地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ但亡失シタル年金證書ヲ發見シタルトキハ直ニ地方廳ヲ經テ賞勳局ニ還納スヘシ

年金證書亡失ノ爲メ年金ヲ受取ルコト能ハサル者ニハ新年金證書ヲ授與シタル次ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス

第二十一條 年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ市町村長ノ證印アル届書ヲ年金證書ニ添ヘ年金支給主管ノ地方廳ニ差出スヘシ

地方長官ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記シ署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勳局及大藏省ニ通知スヘシ

附 録

年 金 繼 受 願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民

故官位功勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

功何級金鵄勳章年金證何號

氏

名

何年何月生

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鵄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月

ヨリ同年十二月マテ(何年七月ヨリ何年六月マテ)一年間私拜受仕度別紙年金證並  
戸籍調書相添此段奉願候也

年 號 月 日

右寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

氏 名 印

市(町)(村)番地

親 族 氏 名 印

市(町)(村)番地

親 族 氏 名 印

賞勳局總裁爵氏名殿

(遺族年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ)

●陸軍省令第二十號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ  
基因シ死歿シタルモノ、遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ癩疾不具  
トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケ

タルモノ又ハ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ扶助料及手當金ヲ受ケタルモ  
ノニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此規程ニ依ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法  
施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令  
書及明治二十七年勅令第百六十四號手當金給與ノ辭令書ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及  
官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶  
助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治廿七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スルモノニハ該手當金ヲ  
支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書ヲ以テ交付シ五拾圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額  
ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持ス  
ルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

第六條 軍事公債證書ノ價格ハ凡テ額面ヲ以テ算ス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限リニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキモノ死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ陸軍省ニ願出ヘシ

第九條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモノヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ己ニ恩給證書扶助料證書又ハ手當金等ヲ交付又ハ支給シタルモノハ各書類ニ依リ調査シ恩給證書扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付セシ地方廳及手當金ノ辭令書ヲ交付セシ師團司令部又ハ屯田兵司令部ヲ經テ支給方取計フモノトス

●陸軍省令第二十一號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 明治二十七八年戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金ハ二十八年勅令第三百二十七號ニ依リ海軍省ニ於テ處理スヘキモノヲ除クノ外陸軍省ニ於テ交付ノ手續ヲナスヘシ但シ地方受給者ニ對シテハ其地方廳ヲ經テ交付スヘシ

第二條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ陸軍省ニ願出スヘシ但シ地方廳ヲ經テ交付シタルモノニ在リテハ其應ヲ經由シテ差出スヘシ

第三條 前條交換請求ハ受領ノ當日限リトス

●海軍省令第三號 (明治二十八年十月十一日)

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ受ケント欲スルモノハ其願書ニ海軍醫官又ハ地方醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ最寄鎮守府病院ニ願出ツヘシ  
鎮守府病院ニ於テ前項ノ診斷書ヲ受ケタルトキハ病院長ハ之ヲ審査シ鎮守府司令長

陸軍省令第二十一號 海軍省令第三號

官ノ認可ヲ經テ入院ヲ許可ス其入院中ノ諸費ハ該病院ニ於テ支辨スルモノトス

●海軍省令第四號 (明治二十八年十月二十四日)

第一條 海軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタルモノ、遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ癩疾不具トナリタルモノ等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタルモノ又ハ明治廿七年勅令第百六十四號ニ據リ手當金ヲ受ケタルモノニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此規定ニ據ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ニ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治廿七年勅令第百六十四號手當金給與ノ金額ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキモノニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ

扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治廿七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スルモノニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書額面ヲ以テ交付シ五十圓未滿ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ己ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 特別賜金ハ總テ所管地方廳ヲ經テ支給ス所管地方廳ハ適宜之ヲ本人ニ交付シ其受領書及調印シタル貯金預入申込書ヲ海軍省ニ送付スルモノトス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換エント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添エ地方廳ヲ經テ海軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限ニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキモノ死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼續者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ海軍省ニ願

出ツヘシ

第九條 此規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル后傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ニ給スルコトナシ

第十條 第三條、第四條ノモノニシテ已ニ恩給證書扶助料證書及辭令書又ハ手當金等交付又ハ支給シタルモノハ各書類ニ依リ之ヲ調査シ支給方取計フモノトス

●成城學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ陸軍武學生徒ノ豫備科ヲ教授スル所トス

第二條 本校ノ教科ヲ分チテ豫科尋常及ヒ高等ノ三トス

第三條 學科程度ハ其豫科及ヒ尋常科ハ尋常中學校ノ程度ニ準シ高等科ハ尋常科ニ續キテ更ニ高等ノ普通學科ヲ授クルモノトス

第四條 修業年限ハ豫科ハ二ケ年ニシテ之レヲ四學級ニ分チ尋常科ハ三ケ年ニシテ

之レヲ六學級ニ分チ高等科ハ一ケ年ニシテ之レヲ二學級ニ分ツ

但シ豫科卒業生ハ尋常科第六級ニ尋常科卒業生ハ高等科第二級ニ編入ス

第五條 本校ノ生徒ハ大約八百名ヲ定員トス

第六條 本校ノ生徒タルコトヲ得ル者ハ陸軍出身志願ニシテ品行端正身軀強健入學試験ニ及第シ其年齡ハ豫科生徒ハ滿十二年以上十八年未滿尋常及ヒ高等科生徒ハ滿十四年以上二十三年未滿トス

第七條 本校ノ生徒タル者ハ學生ノ監督ヲ爲シ得ヘキ保證人一名ヲ要ス保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ府下ニ一家ヲ成シ身元確實ナル者ニ限ル

但シ其保證人ヲ不充分ト認ムルハ之レヲ易ヘシムルコトアリ

第八條 本校生徒ノ殊ニ服膺遵守スヘキ細則ハ別冊生徒心得ヲ以テ之レヲ定ム

第九條 生徒ノ學級ヲ定メ卒業ヲ認ムルハ試験規則ニ據ル

第十條 本校尋常科以上ノ卒業者及ヒ陸軍士官候補生同幼年學校生徒ヲ命セラレ又ハ一年志願兵ヲ許可セラレタル本校生徒ハ永ク其名籍ヲ存シ校友トシテ之レヲ待



遇スル者トス但シ校友規約ハ別冊ヲ以テ之レヲ定ム

第二章 教則

第一條 豫科尋常科及ヒ高等科ノ授業科目及ヒ程度ハ左ノ表ヲ以テ之レヲ定ム  
(表畧ス)

第三章 學曆

第一條 學年ハ六月十五日ニ始マリ翌年六月五日ニ終ル之レヲ前後ノ二學期ニ分チ  
一學期ヲ以テ一學級ノ修業期限トス其前學期ハ六月十五日ニ始マリ十一月盡日ニ  
終リ其後學期ハ十二月十日ニ始マリ六月五日ニ終ル

第二條 每週授業時間ハ豫科ハ三十四時乃至三十五時尋常及ヒ高等科ハ三十六時乃  
至三十七時トス

第三條 休業日左ノ如シ

- 一 日曜日
- 一 秋季皇靈祭
- 一 秋分日

一 神嘗祭 十月十七日

一 天長節 十一月三日

一 新嘗祭 十一月二十三日

一 夏季休業 八月一日ヨリ全三十一日迄

一 冬季休業 十二月廿八日ヨリ一月八日迄

一 孝明天皇祭 一月三十日

一 紀元節 二月十一日

一 春季皇靈祭 春分日

一 神武天皇祭 四月三日

一 靖國神社祭 五月六日、十一月六日

第四章 入學退學

第一條 入學志願者ハ試験規則ニ依リ体格學力試験ノ上尋常科第二級以下ニ於テ之  
レヲ許ス

但シ試験及第ノ者募集人員ニ超ユルキハ其學業履歴及ヒ試験成績ノ優劣ヲ考査シテ順次ニ入學セシム

第二條 入學試験ハ毎年五月、十一月ノ二回ニシテ其入學ハ六月及ヒ十二月ニ於テス

第三條 豫科入學志願者ハ豫科最下級(第四級)ノ編入試験ヨリ始メ尋常科入學志願者ハ豫科第二級ノ編入試験ヨリ始メ其志願級ニ至ルマテ順次ニ上級ノ編入試験ヲ施シ以テ適當ノ學級ニ編入ス

第四條 入學試験ニ於ケル豫科及ヒ尋常科各級ノ編入試験學科目及ヒ程度ハ左ノ表ヲ以テ之レヲ定ム

(表略ス)

第五條 本校ノ躰格試験合格者ニシテ高等小學校第二年卒業以上ノ者ハ學力試験ヲ要セス入學ヲ許シ其第二年卒業生ハ豫科第四級ニ第三年卒業生ハ同第三級ニ第四年卒業生ハ同第二級ニ編入ス尤モ更ニ上級ヲ志願スル者ハ編入試験施行ノ上適當

ノ學級ニ入ラシムルコトアリ

第六條 本校ノ躰格試験合格者ニシテ尋常中學校ニ在學セシ者ハ學力試験ヲ要セス入學ヲ許シ其第一年前期生尋常中學校第一年前期生ニ在學セシコト五尋常中學校第一年前期生ハ豫科第四級ニ第一年後期生尋常中學校第一年前期生ニ在學セシ者ヲ云フ以下之レニ倣フ尋常中學校第一年前期生ハ同第三級ニ第二年前期生ハ同第二級ニ第二年後期生ハ同第一級ニ第三年前期生ハ尋常科第六級ニ第三年後期生ハ

同第五級ニ第四年前期生ハ同第四級ニ第四年後期生ハ同第三級ニ第五年生ハ同第二級ニ全科卒業生ハ同第一級ニ編入ス尤モ更ニ上級ヲ志願スル者ハ編入試験施行ノ上適當ノ學級へ入ラシムルコトアリ

第七條 本校生徒ニシテ一旦退學セシ者更ニ入學ヲ請フキハ特別ノ詮議ヲ以テ之レヲ許スコトアルヘシ

第八條 入學志願者ハ左式ノ入學願書及ヒ履歴書ヲ認メ本人又ハ代理人持參シ差出ス可シ

但シ高等小學校第二年以上ノ卒業生ハ其卒業證ヲ又尋常中學校ニ在學セシ者ハ

其卒業證或ハ修業證或ハ之レニ代フヘキ當該學校ノ證明書ヲ添フヘシ  
(用紙美濃紙)

入學願書

私儀陸軍出身志願ニ付御校ニ入學何科何級ヨリ修業尙外國語學ハ英  
(佛)(獨乙)語學修業致度乃履歷書相添ヘ此段相願候也

府下何區何町何番地何誰方

道廳府縣國市區町番地族籍(戶主ニアラサ  
レハ誰子弟等)

本人何誰

年月日

何年月日生  
當何月何年何ヶ月

府下何區何町何番地

道廳府縣族籍

職業(官員ハ官名某會社  
員或ハ農工商等)

身元保證人何

誰

成城學校長何誰殿

(用紙美濃紙)

履歷書

一父母(養父母)何誰存(亡)職業何々入學志願者ニシテ軍人及ヒ判任  
(養父)何官職姓名何年月日何地ニ官待遇以上ノ軍屬ノ遺子ハ父  
於テ戰死若クハ何々ニヨリ死亡

一年月種痘(天然痘)

一年月何地何學校ニ入り(何地何某ニ從ヒ)何學何科何級就業以來年  
月マテ修業及ヒ其修業(卒業)セシ階級何々、用書何々、

一年月何地何學校ニ入り(何地何某ニ就キ)何年間何語學修業、其修  
業(卒業)セシ科目何々、用書何々

一年月何所ニ於テ何事ニ付何賞(罰)ヲ受ク等  
右之通ニ候也

年月日

本人何誰  
身元保證人何誰

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ證書及ヒ届書ヲ出ス可シ

(用紙美濃紙、證券印紙貼用)

入學證書

某儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守リ他念ナク勤學可仕此段相誓候也

府下何區何町村何番地何誰方

道廳府縣國市區町番地族籍(戶主ニアラサレハ誰子弟等)

年月日

何 誰 印

成城學校長何誰殿

前書何誰在學中一切ノ事件ハ私負擔可仕候乃證書如斯候也

府下何區町番地

道廳府縣族籍

職業(官員ハ官名某會社員或ハ農工商等)

身元保證人 何

誰 印

向後轉居改印又ハ身分ニ異動生シ候節ハ可及御届又旅行ノ節ハ相當ノ代理者相立テ可及御届尙歸京ノ節ハ速ニ其旨可及御届候也

(用紙半紙)

印鑑届

何誰在學中一切ノ事件ニ付拙者ヨリ差出スヘキ書類ニハ必ス別紙印形相用ヒ候間此段及御届置候也

年月日

何誰身元保證人 何 誰 印

成城學校御中

別紙 (用紙厚紙) 四寸八分

實印



見留印



何誰身元保證人 宿所番地 何

誰

分一寸一

第十條 生徒入學ノ時ハ左ノ物品ヲ調製準備スヘシ

一 制服

上衣

袴

外套 頭巾 附

二 制帽

三 靴

四 教科用器具

五 教科用書籍及ヒ手簿

(地質)冬期ハ濃紺小倉又ハ「ヘル」夏期ハ霜降小倉  
(製式)「ジャケット」形(襟章)白、(袖章)高等科生徒及ヒ尋常科  
生徒ハ白、豫科生徒ハ赤  
(地質)上衣ニ同シ

(地質)紺絨  
(製式)乘馬、徒歩ノ折衷

(地質)濃紺絨(製式)陸軍第二種形ニ同シ  
(徽章)小星章、(日覆)白「リンナル」キヤラコノ類

(品質)黒革

圖引具、黒「インキ」入レノ類

第十一條 本校生徒ハ校内寄宿舎及ヒ校外附屬舎ニ寄宿スル者ノ外ハ保證人又ハ其監督ヲナシ得ヘキ近親中ニ就キ宿泊所ヲ豫定シ本校ノ認可ヲ受クヘシ

但シ府下ニ相當ノ近親ナク又保證人宅ニ宿泊シ難キ者ハ特ニ詮議ノ上他ニ寄宿スルヲ許ス「アル」ヘシ

第十二條 生徒疾病其他己ムヲ得サル事故アリテ在學シ難キ時ハ保證人出校其事由

ヲ具陳シ左式ノ願書ヲ出シ校長ノ許可ヲ請フ可シ

(用紙美濃紙)

退學願

私儀何事故(病氣)ニ付退學致度(醫師診斷證相添)此段相願候也

何科第何級生

年月日

何

誰 ①

成城學校長何誰殿

前書何誰退學出願ノ趣事實相違無之候也

身元保證人 何

誰 ②

第十三條 本校生徒ニシテ陸軍士官候補生ハ陸軍幼年學校生徒又ハ陸軍一年志願兵ヲ命セラレタル者ハ退學願ヲ要セス左ノ届書ヲ出ス可シ

(用紙半紙)

御 届

何科卒業生(第何級生)

何 誰

今般陸軍士官候補生(陸軍幼年學校生徒)(陸軍一年志願兵)被命候間  
此段及御届候也

年 月 日

右

何

誰

印

成城學校長何誰殿

第十四條 無届缺席十四日ヲ過クル者ハ別ニ通知ヲナサスシテ生徒名籍ヲ除スル  
アリ

第五章 試験

第一條 試験ヲ分チテ入學試験月課試験學級試験及ヒ卒業試験ノ四種トス

第二條 凡ソ試験ノ優劣ハ點數ヲ以テ之レヲ品評ス其方法ハ各學術科毎ニ二十ヲ以

テ定點トシ左ノ例規ニ據リテ評點ヲ定ム

- 第一等 評點 二十ヨリ
- 第二等 評點 十七ヨリ
- 第三等 評點 十三ヨリ
- 第四等 評點 九ヨリ
- 第五等 評點 五ヨリ
- 評點 零

第三條 凡ソ試験ニ及第セサル者ハ其事由ノ何タルニ拘ハラズ再試験ヲ受クルヲ  
得ス

第四條 入學試験ハ入學ヲ許スノ際之レヲ施行シ志願者ノ体格及ヒ學力ヲ試験ス  
但シ其學力試験ノ科目及ヒ程度ハ第四章第四條ノ規定ニ依ル

第五條 入學試験ニ於テハ諸科目ノ評點ノ合計ヲ科目數ニテ除シ之レヲ其諸科目ノ  
評點平均數トナシ左ノ規定ニ據リテ其及第落第ヲ判定ス

評點平均數	各科目ノ評點	評點六未滿ノ科目數及點數		判決
		科目數	點數	
六點以上	六點以上			及第
全	一科以上	三點未滿		落第
全	一科	三點以上四點未滿		及第
全	二科以上	三點以上四點未滿		落第
全	一科乃至二科	四點以上五點未滿		及第
全	三科以上	四點以上五點未滿		落第
全	一科乃至二科	五點以上六點未滿		及第
全	四科以上	五點以上六點未滿		落第
六點未滿				落第

第六條 月課試驗ハ一學期中ニ少クモ二回之ヲ施行シ其間ニ履修セシ學科及術科ノ成績ヲ檢査ス

第七條 月課試驗ニ於テハ兼テ各生徒ノ容儀品行ノ優劣ヲ品評ス其評點ハ平素ノ容儀品行ニ參シ罰科ノ有無輕重ヲ按シテ之レヲ定ム

第八條 月課試驗ニ缺席シタル者ハ其缺席科目ノ評點ヲ零ト見做スヘシ  
但シ試驗前身元保證人本人連印ニテ其缺席ノ止ムヲ得サル事情ヲ左ノ書式ニ做ヒテ具陳シ缺席ノ認可ヲ得タル者ハ該學期中ノ前回或ハ後回ノ月課試驗ニ於ケル該學科ノ評點數(又ハ其月課試驗乃至前回或ハ後回ノ月課試驗ニ於ケル諸科目ノ評點平均數)ノ十分ノ四ヲ以テ其缺席科目ノ評點ト做シ之レヲ與フ  
(用紙美濃紙)

月課試驗缺席願

私儀今回御施行ノ試驗相受可申處別紙診斷證(或ハ書信)之通自己病氣(或ハ父母病氣)ニ付受験致兼候間右試驗缺席之儀御認可被下度此段相願候也

何科第何級生何語學何班

年月日  
前書願出之趣事實相違無之候也

本人 何 誰 ①

身元保證人 何 誰 ②

成城學校御中

第九條 學級試験ハ毎學期ノ終ニ於テ施行シ其學期中及ヒ前學期中ニ履修セシ學科及ヒ術科ノ成績ヲ檢査ス

第十條 學級試験ニ於テハ各科目ニ就キ其學期中ノ月課試験評點ノ合計ヲ月課試験ノ回数ニテ除シ平素ノ試問平均點ヲ加ヘ二除シテ各科目ノ月課試験平均點トシ月課試験ヲ施行セサル科目ニ於テハ其平素更ニ之レヲ學級試験各科目ノ評點ニ加ヘ二除シテ各科目ノ學期評點トシ諸科目ノ學期評點ノ合計ヲ科目數ニテ除シ學期總評點平均數トシ左ノ規定ニ照シテ其及落第ヲ判定ス

學期總評點平均數	各科目ノ學期評點	學期評點六未滿ノ科目數及點數	判定	決
六點以上	六點以上	一科以上	三點未滿	落第
全		一科	三點以上四點未滿	及第
全		二科以上	三點以上四點未滿	落第
全		一科乃至二科	四點以上五點未滿	及第
全		三科以上	四點以上五點未滿	落第
全		一科乃至三科	五點以上六點未滿	及第
全		四科以上	五點以上六點未滿	落第
六點未滿				落第

但シ各科目ノ學期評點六以上アルモ學級試験ニ缺席シ或ハ零點ヲ得タル者又ハ其學期中ニ得タル容儀品行點ノ平均數八ニ滿タサル者ハ落第トス  
第十一條 學級試験及第者ハ昇級セシメ本章第十八條第一書式ノ昇級證ヲ授與シ落



第者ハ原級ニ止メ其上位ニ編入ス

第十二條 學術進步セス再三學級試験ニ落第シ到底成業ノ目途ナキ者ハ諭示シテ退學セシムルコアリ

第十三條 卒業試験ハ豫科尋常科及ヒ高等科トモ最後學期ノ終ニ於テ施行シ各々其科ニ在テ履修セシ學科及ヒ術科全体ノ成績ヲ檢査ス

第十四條 學級試験或ハ卒業試験ニ際シ父母ノ死歿又ハ此他止ムヲ得サル正當ノ事由ニヨリ缺席セントスル者ハ本章第八條ノ書式ニ準シ試験缺席願書ヲ認メ本人保證人連印ニテ願出ツヘシ

第十五條 父母ノ死歿ニヨリ學級試験或ハ卒業試験ノ缺席ヲ認可セシ者ハ次學期ノ始メニ於テ補缺試験ヲ行フヘシ又此他正當ノ事由ニヨリ其缺席ヲ認可セシ者ニシテ該學期中ノ毎科目ノ月課試験平均点何レモ十以上ナルキハ亦次學期ノ始メニ補缺試験ヲ行フヘシ

但シ次學期ニ入り二週間ヲ過キテ仍ホ本人出校セサルキハ補缺試験ヲ行ハス其

評点ニ代フルニ前學期中ニ得タル其缺席科目ノ月課試験平均点ノ十分ノ四ヲ以テス

第十六條 卒業試験ニ於テモ仍ホ第十條ノ規定ニ準ヒ及第落第ヲ判定シ及第者ニハ本章第十八條第二書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第十七條 凡ソ及第者落第者トモニ列序ハ其試験ノ總評点平均數ニ其學期中ニ得タル容儀品行点ノ平均數ヲ加ヘタル和ノ多寡ニ依リテ之レヲ定ム

第十八條 昇級證及ヒ卒業證書ノ書式左ノ如シ

第一書式

番號	印刷
昇級證	
何科第何級生	
族籍	
何	
年	某
月	生

第二書式

番號	印刷
卒業證書	
族籍	
何	
年	某
月	生
校印	
本校何科ヲ修メ定期ヲ歴テ考試ヲ	

右ハ定期ノ試験ヲ歷テ第何級ヘ昇級セシム

年  
校  
月  
日  
印

成城學校

完フシ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之レヲ證ス  
年月日

成城學校長 誰 印  
何 學 監 誰 印  
全 何 誰 印  
全 教 頭 誰 印

第六章 入舍手續

第一條 校內寄宿舍又ハ校外附屬舍ニ入舍セント欲スル生徒ハ先ツ保證人ヲ以テ左式ノ願書ヲ出スヘシ

(用紙美濃紙)

入舍願

何科第何級生 何 誰

右之者御校寄宿舍(附屬舍)へ入舍爲致度候間御許可被成下度此段相願候也

年月日 身元保證人 何 誰 印

成城學校御中

第二條 入舍ノ許可ヲ得タルモノハ左式ノ證書ヲ出スヘシ

(用紙美濃紙、證券印紙貼用)

入舍證書

私儀今般入舍御許可相成候ニ付テハ殊ニ品行ヲ慎ミ御規則ヲ堅ク遵守可仕候也

道廳府縣國市區町村(戶主ニアラサレハ誰子弟等) 誰 印  
年月日 何

成城學校長何誰殿

前書何誰在舍中一切ノ事件ハ拙者負擔可仕候仍保證書如斯候也  
府下何區何町何番地

道廳府縣族籍  
身元保證人 何

誰 ㊦

第三條 生徒入舎ノ時ハ左ノ物品ヲ携帯スヘシ

一 寢具枕共

一 毛布一枚以上

一 寢衣

一 襦袢、袴下、靴下ノ類

一 靴手入具

一 袴(和服ヲ所持スル者)

但シ附屬舎ニ入舎スル者ハ必スシモ毛布ヲ要セス

第四條 校內入舎生徒ニハ左ノ器具ヲ貸與ス

一 机、腰掛

一 寢臺

一 書籍入レ及ヒ衣服戸棚

一 食器

一 燈具

第七章 賞罰

第一條 生徒一學期中學業優等品行方正ナル者ハ褒賞ヲ與フ褒賞ハ賞品、褒狀ノ二種トス

第二條 規則ヲ犯シ訓誨ニ背ク者ハ之レヲ懲戒ス

第三條 懲戒ハ罰席、直立、留置、禁足、退舎、上校停止、退校ノ七科トス

第四條 罰席ハ講堂中別ニ設クル罰席ニ就カシム直立ハ一時間以内講堂ニ直立セシム留置ハ通學生ニ限り之レヲ科シ課業後一時間講堂ニ留置ク禁足ハ入舎生ニ限り科スル者ニシテ門外ニ出ツルヲ禁ス退舎モ亦入舎生ニ科スル者ニシテ寄宿舎又ハ附屬舎ヲ退カシム上校停止ハ改悛ノ徵アル迄上校ヲ停止ス(入舎生ニハ退舎ヲ併科ス)退校ハ退學ヲ命スルモノトス

但シ留置及ヒ禁足ニハ罰席ヲ附加ス

第五條 過誤失錯ニ出ツル犯則ハ一日以上十五日以下ノ罰席或ハ留置ニ或ハ一日以上十五日以下ノ禁足ニ處ス

但シ其情狀原諒ス可キ者ハ誠諭ニ止ム

第六條 怠慢放肆及ヒ故意ニ出ツル犯則ハ三十日以内ノ罰席ニ或ハ留置ニ或ハ禁足ニ或ハ十日以内ノ直立ニ處シ其情狀重キ者ハ前數罰ヲ併科シ亦退舎ヲ命シ尙ホ上校停止ニ處ス

第七條 受罰數回ニシテ尙ホ改悛ノ徵ナキ者又ハ校則ニ悖リ風紀ヲ紊ル等本校ノ風教ヲ害スルコト甚シキ者ハ退校ニ處ス

第八條 受罰一週間以上ニ渉ルモノハ滿罰ノ際處罰者ニ對シ悔悟改悛ノ誓言ヲ爲サシム

第八章 學費

第一條 入學受験料ハ金五拾錢入校料ハ金壹圓五拾錢授業料ハ一箇月金壹圓參拾錢教場費ハ一箇月金拾錢トス

第二條 入舍生徒ノ食料ハ時價ノ高低ニ由リ増減スト雖モ大約一箇月金參圓以上四圓以下トス舍費(燈具及炭油料ヲ含有ス)ハ一箇月金參拾錢トス

但シ附屬舍ニ入舍スル者ハ舍費ヲ要セス

第三條 授業料教場費食料ハ毎月十五日迄ニ會計係ヘ納付ス可シ

第四條 入學退學ノ節授業料教場費ハ其月十五日前後ヲ以テ區分シ食料ハ其日數ニ由リ計算シ當日之レヲ會計係ニ納付ス可シ

第五條 在學生徒疾病其他事故ニ因リ缺席シ又ハ上校停止ヲ命セラレタル者モ授業

料教場費ハ成規ノ通り納付スヘキモノトス

第六條 生徒ノ制帽制服ノ調製ハ本人ノ便宜ニ依リテハ會計係ニ申出テ其取扱ヲ乞フコトヲ得可シ

第七條 本校ノ物品ヲ毀損シ又ハ亡失スルキハ各自辨償スル者トス其辨償方ハ本校ノ通達ニ由リ一週間内ニ會計係ニ納付ス可シ

第八條 授業料教場費或ハ食料等納付遲滞ノ時ハ郵便先拂ヲ以テ保證人ヘ督促ス

第九條 授業料教場費等ヲ怠納シ會計係ヨリ納付ノ通知ヲ受ケ尙ホ督促スルモ納メサル者ハ退學ヲ命ス又入舍生ニシテ食料等ヲ怠納スル時ハ退舍ヲ命ス

○成城學校職制

一 校長 一人

校務ヲ總理シ校員ノ黜陟進退ヲ掌ル

一 幹事長 一人

校内ノ事務ヲ掌理ス

一 幹事 三人

校内ノ庶務及ヒ圖書器械會計ノ事ヲ分掌ス

一 書記 六人

幹事ニ屬シ庶務圖書器械會計ノ事ニ服ス

一 醫員 一人

生徒衛生ノ事務ヲ掌理シ患者ノ治療ヲ擔當ス助手一人ヲ屬ス

一 學監 一人

學務ヲ監督シ又教育ノ方法ニ付テハ其可否ヲ獻替ス

一 教頭 一人

教育ノ課程ヲ規畫シ各講師ヲシテ各科ノ教授ヲ分擔セシメ且其可否ヲ監

視ス

一 講師 四十人

教頭ノ旨ヲ受ケ學科ノ教授ヲ分掌ス

一 生徒監長 一人

教場及ヒ生徒舎ヲ整理シ生徒ノ品行勤惰ヲ監督シ術科演習ノ事ヲ擔當ス

一 生徒監副長 一人

生徒監長ヲ補助シ其事務ニ服ス

一 生徒監 十人

生徒監長ノ旨ヲ受ケ教場及ヒ生徒舎ノ監視ヲ爲シ且術科ノ教授ヲ分掌ス

○成城學校商議會

一 商議會ハ左ノ諸員ヲ以テ組織ス

一 學校長 學監 幹事長 教頭 生徒監長

一 商議員

商議員ハ名譽補助員及ヒ補助員中ニ就キ推薦シテ依囑スルモノトス

一 商議會ノ議決ヲ要スルコト左ノ如シ

- 一 本校ノ職制規則及ヒ教育上改正其他重大ノ件
- 一 學校長推薦ノ件 校長ノ推薦及ヒ解囑ハ共ニ推薦及ヒ解囑狀ヲ以テス
- 一 本校創立者ハ商議會ニ參スルモノトス

●海軍豫備校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ海軍兵學校及ヒ海軍機關學校ヘ入校志願ノ生徒ヲ教育養成スル所ナリ

第二條 本校修業年限ハ五ケ年トシ之ヲ五級ニ分ツ

但シ此年級外ニ豫科ヲ設ケテ第一年級ヘ入ル能ハサル者ノ學力ヲ補充ス

第三條 本校生徒タルモノハ海軍出身志願ニシテ品行方正身體強健本校入學試験ニ合格セシ者トス

第四條 本校生徒ハ年齡十二年以上ニシテ兵學校入學年限ニ差支ナキ者トス

第五條 本校授業時間ハ每週三十六時間トシ

但シ時宜ニ依リ増減スルコアルヘシ

第二章 學科課程

第六條 本校學科課程ヲ定ムル左表ノ如シ

但シ第三年級ヨリ兵學校及ヒ機關學校ノ試験ニ應スルヲ得

(表略ス)

第三章 學年及ヒ休業

第七條 學年ハ九月十日ニ始マリ翌年九月九日ニ終ル

第八條 休業日ハ大祭祝日日曜日及ヒ夏季休業(二週日間)冬季休業(十二月廿六日ヨリ一月七日マ)トス

第四章 入學及ヒ退學

第九條 本校ニ入學セント欲スル者ハ第一號書式ニ據リ入學願書及ヒ學業履歷書ニ  
体格受檢料金二十錢ヲ添ヘテ差出スヘシ

第十條 本校ニ入學ノ許可ヲ得タル者ハ學術試験ノ上相當ノ級ヘ編入スト雖モ豫科  
ヘ入ルモノハ學術試験ヲ要セス

但シ尋常中學卒業ノ者ニハ學術試験ヲ行ハスシテ第四年級ニ入ラシム

第十一條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ第二號書式ニ據リ在學證書ニ保證人ノ印鑑ヲ  
添ヘ保證人同道出校ノ上差出スヘシ

第十二條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ服裝及ヒ教科用書等ハ一週間内ニ調製準備ス  
ヘシ

但シ帽章ハ本校ヨリ附與ス

第十三條 保證人タルヘキモノハ東京府内ニ住シ丁年以上ノ男子ニシテ一家ヲ立ツ  
ルモノトス若シ本校ニ於テ不充分ト認ムルハ變換セシムルヲアルヘシ

第十四條 生徒疾病其他己ヲ得サル事故アリテ二週日以上出席シ能ハサルハ保證  
人出校ノ上第三號書式ニ據リ願書ヲ出シ許可ヲ乞フヘシ

第十五條 生徒止ヲ得サル事故アリテ退學ヲ請フ者ハ其理由ヲ具シ保證人出校ノ上

連署ヲ以テ願出ツヘシ

但シ許可ヲ受ケタルモノハ直ニ帽章ヲ返納スヘシ

### 第五章 試験

第十六條 試験ヲ分チテ入學試験小試験大試験及ヒ臨時試験ノ四種トス

第十七條 凡ソ試験ニ欠席シタル者ハ何等ノ事由ニ拘ハラステニ試験ヲ受クルヲ得  
ス

第十八條 小試験ハ既ニ履修セシ學科ニ就キ三ヶ月毎ニ之ヲ行ヒ更ニ其座次ヲ定ム  
ルモノトス

第十九條 大試験ハ其學年中履修セシ學科ニ就キ學年ノ終リニ之ヲ行ヒ其學級ヲ進  
止セシムルモノトス

第二十條 臨時試験ハ其必要ヲ認ムルキ之ヲ施行スルモノトス

第二十一條 大小試験點數ハ毎科一百點ヲ以テ滿點トシ毎科得點三十點以上ニシテ平  
均五十點以上ヲ合格點トス

第廿二條 優等點ハ毎科得點五十點以上ニシテ平均九十點以上トス

第廿三條 大試験點數ハ毎科點數ヲ小試験毎科平均點數ト合シ之ヲ折半セシモノトス

第廿四條 大試験ニ於テ及第シタル者ニハ進級證書ヲ授與ス

第廿五條 等級ハ大試験ニ於テ之ヲ定ムト雖モ學業優等ナルモノハ臨時試験ヲ行ヒ進級セシムルコトアルヘシ

第廿六條 大試験及ヒ小試験成績表ハ勤惰表ト共ニ生徒ノ父兄若クハ保證人ニ送附ス

第六章 學資

第廿七條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ入學金壹圓ヲ會計係ヘ納ムヘシ

第廿八條 授業料ハ月額本科金壹圓貳拾錢豫科金壹圓トス

但シ十五日以後ニ入學スル者ハ其月ニ限り半額ヲ納ムヘシ

第廿九條 授業料ハ前月末ニ會計係ニ納メ領收證ヲ受クヘシ

第三十條 授業料ハ何等ノ事由アルニ係ラス其月三日マテニ納メサレハ教場ニ入ルヲ許サス

第三十一條 授業料ハ本校學籍ニアル間ハ假令ヒ欠席スト雖トモ必ス之ヲ納ムヘシ

第三十二條 通學生ハ校費金貳拾錢寄宿生ハ校費及ヒ舍費金五拾錢ヲ毎月授業料ト共ニ會計係ヘ納ムヘシ

第三十三條 寄宿生ハ一ヶ月食費金參圓貳拾錢前月末ニ會計係ヘ納ムヘシ

但シ食費ハ物價ノ昂低ニ依リ増減スルコトアルヘシ

第三十四條 入舍ノ節其月分ノ食費ハ日割ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

但シ退舍ノ節モ日割ヲ以テ返附ス

第三十五條 既ニ納メタル入學金授業料及ヒ校費ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返附セス

第三十六條 授業料或ハ食費等納付遲滞ノキハ郵便先拂ヲ以テ保證人ヘ督促ス

第三十七條 生徒ノ都合ニ依リ父兄又ハ保證人ヨリ本校會計係ニ學資ヲ預ケント欲スル者アルトキハ本校規定ノ方法ニ據リ其需メニ應スヘシ



第七章 生徒心得

第三十八條 本校生徒タルモノハ 勅諭ヲ奉體シ本校教育ノ主旨ヲ謹守シ常ニ左ニ掲クル各項ヲ服膺スヘシ

第一項 校内ニ在リテハ靜肅ヲ旨トシ決シテ暴慢卑倍ノ云爲アルヘカラス

第二項 遲刻シタル者ハ生徒監ヘ其理由ヲ届ケ教員ノ許可ヲ得テ着席スヘシ

第三項 授業中教員ノ許可ナクシテ自席ヲ離ルヘカラス

第四項 教員ノ許可ナクシテ授業用ノ物品ニ手ヲ觸ルヘカラス

第五項 猥リニ他ノ教場又ハ舍室ニ入ルヘカラス

第六項 教科用物品ノ外一切教場ヘ持ち入ルヘカラス

第七項 本校生徒ハ校ノ内外ヲ問ハス言語動作ヲ謹ミ服装ヲ正フシ苟クモ本校生徒タルノ面目ヲ汚スヘカラス

第八項 凡テ命令及ヒ告示ハ常ニ之ヲ確守スヘシ

第九條 出入券ヲ持參セサル者ハ教場ヘ入ルヲ許サス

但シ紛失ニ係ルノ事實アリテ保證人ノ證明書アルモノハ此限リニアラス

第十項 課業ノ終始ヨリ飲食等ニ至ルマテ總テ一齊ヲ要スル舉動ハ其號音ニ據リテ迅速正確ニ之ヲ爲スヘシ

第十一項 教員ニ對シ質問スルトキハ必ス起立シ苟クモ不遜ノ語氣アルヘカラス

第十二項 諸建物器具等ヲ毀傷シタル者ハ之ヲ償ハシム

第十三項 通學生ニシテ一時間タリトモ缺課セント欲スルモノハ保證人ヨリ其理由ヲ詳記シタル願書ヲ生徒監ヲ經テ幹事ヘ差出スヘシ

但シ當日保證人ノ捺印間ニ合ハサルトキハ自己ノ名ニテ願置キ翌日保證人連署ノ願書ヲ差出スヘシ

第十四項 通學生ハ寄宿舎ヘ入ルヘカラス用事アラハ必ス應接所ニ於テスヘシ

第十五項 頭髮ハ凡ソ前一寸後五分ヨリ長クスヘカラス

第十六項 本人及ヒ保證人ノ轉居或ハ改印シタルトキハ直ニ生徒監督ヘ届出ツヘシ

第八章 敬禮

第三十九條

凡ソ敬禮ハ外觀ノ禮容ヲ表スルノミニアラズ衷心恭敬ノ意ヲ盡スニアリ故ニ敬禮ヲナスニ方リテ尤モ嚴肅ナラサルヘカラス若シ輕卒ノ動作着眼ノ正シカラサルカ如キハ唯禮ヲ失スルノミナラス己レノ威儀ヲ損シ侮ヲ受クルモノナリ

第一項 生徒ハ職員及ヒ教員ニ對シテハ必ス敬禮ヲ行ヒ又各生徒ハ上下ノ序ニ由リ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第二項 生徒ハ海陸軍將校及ヒ准將校ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ

第三項 生徒ノ敬禮ヲ分チテ二トス

一室内ノ敬禮

一室外ノ敬禮

但シ室内トハ教場校員詰所應接所等ニシテ廊下及ヒ体操場等ハ室外ニ屬ス

第四項 室内ノ敬禮式ハ左ノ如シ

第一 生徒室内ニ入ルニハ戶外ニ於テ先ツ外套及ヒ帽ヲ脱スヘシ

第二 生徒室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シテ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シテ

体ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ帽ヲ手ニ持ツトキハ右手ニテ其前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム

第三 生徒室内ニテ敬スヘキ人ニ對スルトキハ其席ヲ離ル、適宜ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フモノトス若シ命令諭告等ヲ受ケ或ハ陳述ヲナストキハ適宜ニ前進シ之ヲ受ケ或ハ陳述シ其場ヲ退クニ臨ミ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フモノトス但シ陳述ヲナスニハ簡單明亮ナルヲ要ス

第四 生徒書類ヲ授與セラル、トキハ前項ノ法ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ證狀ノ如キハ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退クヘシ

第五 校長又ハ海陸軍將校准將校及ヒ豫達アル參觀人教場ヘ入り來リタルトキハ各生徒ハ級長ノ〔立テ〕ノ令ニテ起立シ敬禮ヲ行ヒ而シテ〔就ケ〕ノ令ヲ待テ着席スヘシ授業ノ終始教員ニ對スル敬禮モ亦之ニ同シ

第六 校長又ハ海陸軍將校准將校及ヒ豫達アル參觀人生徒ノ舍室ニ來ルキハ室長(室長不在ノ片ハ先認者)ハ(列ニ直レ)ト令ス乃チ(例ニ)ノ令ニテ一同ヲ廊縁ニ整列セシメ(直レ)ノ令ニテ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム

第五項 室外ノ敬禮式ハ左ノ如シ

第一 生徒室外ノ敬禮ハ舉手注目トス其法姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ其諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ前庇右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊フシ敬スヘキ人ノ眼ニ注目ス

第二 生徒途上ニ於テ 行幸行啓ニ遇フキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ直立正面シ凡ソ車駕ノ六歩前ニ於テ脱帽敬禮ヲ行ヒ六歩後迄此姿勢ヲ保ツヘシ

第三 生徒書類等ヲ授與セラルトキハ凡ソ六歩ノ所ニ於テ直立シ第一ノ法ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ脱シ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ證狀等ノ如キハ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ帽ヲ着ケ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退クヘシ

第四 生徒敬スヘキ人ニ行遇フトキハ凡ソ六歩前ヨリ姿勢ヲ正シ凡ソ三步前ニ於テ直立シ敬禮ヲ行フ者トス又相互ノ禮ハ直立スルヲ要セス

但シ右手ヲ舉クルコト能ハサル場合ニハ敬スヘキ人ニ對シテ其儘直立シ頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケ注目シテ敬禮ヲ表スヘシ

第五 生徒隊伍ヲ編制シタルトキハ總テ指揮者ノ號令ニ從ヒテ敬禮ヲ行フモノトス

第六 生徒途上ニ於テ軍旗ニ行遇フトキハ第二ニ掲クル法ニ據リ敬禮スヘシ但シ軍旗ニ上覆ヲ附シタルトキハ此限リニアラス

第九章 禁制

第四十條 凡ソ左項ニ舉タル禁制ニ背クモノハ罰則ニ照シテ處分ス

第一項 教則命令布達ヲ是非シ或ハ校内布達書揭示書等ヲ汚損スルヲ禁ス

第二項 教場ニ在リテハ一定ノ坐席ニ着キ猥リニ之ヲ變更スルヲ禁ス

第三項 他人ノ修業ヲ妨害シ或ハ恣ニ他人ノ物品ヲ使用シ又ハ書類ヲ披見スルヲ

禁ス

- 第四項 靴ノ外ハ登校スルヲ許サス
- 第五項 政治ニ關スル集合結社ハ勿論講談演說投書等ヲ爲スヲ禁ス
- 第六項 校内ニ於テハ奔走高呼放吟爭論スヘカラス
- 第七項 如何ナル事情ニ拘ハラヌ圓顛トナルヲ禁ス
- 第八項 許可ヲ得スシテ新聞雜誌等一切校内ヘ携帯スルヲ禁ス
- 第九項 教場ニ在リテハ被帽襟卷喫煙談笑等ヲナスヘカラス
- 第十項 本校生徒タル者ハ必ス禁酒スヘシ
- 第十一項 滿十七年以上ノ生徒ニアラサレハ喫煙スルヲ禁ス
- 第十二項 校堂ニ唾シ又ハ戸壁等ニ樂書スヘカラス
- 第十三項 食時時限ノ外ニ食堂ニ出入スルヲ禁ス
- 第十四項 食堂ニ在リテハ互ニ言語ヲ交フヘカラス
- 第十五項 食堂ノ外ニ在リテハ決シテ飲食スヘカラス

第十六項 他人ノ靴履等ヲ妄用スルヲ禁ス

第十七項 控所ノ外ニ於テ喫煙スヘカラス

第十八項 金錢及ヒ物品ヲ貸借スルヲ禁ス

第十九項 本校構内ニ於テ瓦石ヲ抛チ花卉ヲ折リ採ルヘカラス

第十章 賞罰

第四十一條 學業ノ進歩著シク且ツ品行方正ニシテ試験ニ優等點ヲ得タル者ニハ賞品或ハ賞狀ヲ授與シ若クハ授業料ヲ免スルコトアルヘシ

第四十二條 品行方正ニシテ欠席ナキモノニハ學年ノ終リニ賞品若クハ賞狀ヲ與フ

第四十三條 賞品若クハ賞狀ヲ與ヘタルキハ校内ニ揭示シ且ツ保證人或ハ父兄ニ通知スルモノトス

第四十四條 都テ校則ヲ犯シ又ハ校員ノ指揮ニ戾ル者ハ其情狀ニ依リ左ノ罰ニ處ス

一 誹責

一 拘止

- 一 禁足
- 一 退校

但シ處分シタルトキハ校内ニ揭示シ且ツ拘止禁足退校ハ保證人或ハ父兄ニ通知スルモノトス

第十一章 級長心得

第四十五條 生徒ヲシテ剛毅活潑ノ氣象ヲ保持シ遵守整頓ノ慣習ヲ鞏固ナラシムル等凡ソ學科外ノ要道ヲ完全ナラシムル爲メ各級ニ級長一名ヲ置ケ

第一項 級長本校職員及ヒ教員ノ推薦ニ依リ校長之ヲ認可スル者トス

第二項 級長タルモノ學術優等品行方正ニシテ且ツ才幹アルモノヲ撰拔シテ之ヲ命ス此任ヲ命セラレタルトキハ自己ノ情願ヲ以テ之ヲ辭スルヲ得ス

第三項 級長ハ校則ヲ遵守スルハ勿論行狀言語ヲ嚴正ニシ一舉一動總テ他ノ模範ヲラサルヘカラス

第四項 級長ハ所属生徒ニ對シテ百事懇切ヲ主トシ常ニ其任務ヲ盡スコニ注意ス

ヘシ

第五項 級長ハ所属生徒ノ校則ニ違フ者アルヲ認ムルトキハ直チニ之ヲ匡正スヘシ假令所属外ノ生徒ト雖トモ不都合ノ事アルヲ認ムレハ其事由ヲ所属級長ニ通告スヘシ

第六項 級長ハ授業中校長又ハ海陸軍將校及ヒ准將校豫達アル參觀人ノ入り來リタルトキハ敬禮第五ノ法ニ據リ敬禮ヲ行ハシム

第七項 級長ハ授業始ノ號音ヲ聞キ所属生徒ヲ各自定所ニ整列セシメ人員調査ヲ爲シテ教場ニ入り教員ノ臨場ヲ待チ敬禮ヲ爲サシメ又授業ノ終リニ於テ敬禮畢レハ直チニ定所ニ整列セシムヘシ

第八項 級長ハ所属生徒中不都合ノ行爲アリタルトキハ其事宜ニ依リ生徒監督ヘ申出ツヘシ

第十二章 寄宿舍則

第四十六條 本校寄宿舍設置ノ目的ハ生徒ノ品行ヲシテ方正ナラシメ學業ヲシテ精

練ナラシメ其志操ヲ鞏固ナラシムルニ在ルヲ以テ寄宿生タル者ハ此意ヲ依シテ常ニ其言行ヲ謹慎スヘシ

第一項 寄宿ノ許可ヲ得タル者ハ第四號書式ニ據リ在舍證書ヲ出スヘシ

第二項 寄宿ノ許可ヲ得タル者ハ第四號書式ニ據リ在舍證書ヲ出スヘシ

第三項 外出ノ節ハ出入券ヲ生徒監ニ出シ置キ歸舍ノ時之レヲ受取ルヘシ

第四項 門限ハ午後六時トシ止ヲ得サル事故アリテ一夜タリトモ外泊スル時ハ保證人ノ實印ヲ捺シタル證書ヲ持參スヘシ

第五項 教場自習室及ヒ食堂等ニ在リテハ一定ノ坐席ニ就キ擅ニ之ヲ變換スルヲ得ス

第六項 漫リニ他室ニ出入シ又ハ宿泊スルヲ禁ス

第七項 外來人ハ之ヲ寄宿舍ヘ誘フヘカラス要談ハ應接所ニ於テスヘシ

第八項 事故アリテ缺課セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シ舍長生徒監ヲ經テ授業時間前ニ幹事ニ願出ツヘシ

第九項 食事ノ時刻ハ喇叭ノ號音ニ依リテ食堂ニ入ルヘシ

第十項 食事ノ節ハ生徒監一名必ス臨監スルモノトス

第十一項 食事中ハ總テ臨監生徒監ノ指揮ニ從フヘシ

第十二項 食事中校長臨檢アルトキハ臨監生徒監ノ號令ニ從ヒ敬禮ヲ行フヘシ

第十三項 食卓上備付ノ食物ヲ取捨シ又ハ備付外ニ要求スルヲ許サス

但シ病氣等ノ爲メ止ヲ得サルトキハ豫メ之ヲ舍長ニ申出ツヘシ

第十四項 食事時限ノ外食堂ニ出入スルヲ禁ス

第十五項 食事中ニ炊夫ヲ呼フキハ右手ヲ舉ケ決シテ言語ヲ發スヘカラス

第十六項 食卓上ハ勿論堂内ヲ汚ス所爲アルヘカラス

第十七項 食器ハ叮嚀ニ取扱ヒ若シ轉覆毀損シタルトキハ直ニ舍長ニ其旨申出ツヘシ

第十八項 食堂ニ於テハ決シテ互ニ言語ヲ交フヘカラス

第十九項 舍中ノ時限ヲ定ムル左ノ如シ

起床 (夏ハ)五時(冬ハ)六時

消燈 十時

朝餐 起床後一時

午餐 正午十二時

晚餐 (夏ハ)六時(冬ハ)四時

自習 (冬夏トモ)朝餐後ヨリ始業準備迄ノ内若干時間(夏ハ)晚餐前後ニ

於テ若干時間(冬ハ)晚餐後ヨリ就寢人員調査迄ノ内若干時間トス

休憩 (冬夏トモ)放課後ヨリ晚餐時間マテノ内若干時間(夏ハ)就寢人員

調査前ニ於テ若干時間トス

但シ詳細ハ寄宿舎内則ヲ以テ之ヲ定ム

第二十項 食事上賄人ニ不都合アルルハ舎長ヲ經テ生徒監ニ申出ヘシ決シテ賄人

ト直接ニ應對スヘカラス

第二十一項 定時ノ後一時間ヲ過クレハ食事スルヲ得ス

但シ病氣或ハ非常ナル事故ノ爲ニ止ヲ得サルトキハ其旨舎長ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第二十二項 毎朝必ス自己ノ室内ヲ清潔ニ掃除スヘシ

第二十三項 舎長ノ許可ヲ得スシテ漫リニ舎室ヲ易フルヲ禁ス

第二十四項 就寢ノ時ハ必ス燈火、火鉢、其他ノ火氣ヲ悉皆消滅スヘシ

第二十五項 寢床ヲ共ニシ或ハ就寢後濫リニ言語ヲ交フルヲ禁ス

第二十六項 室内ニテハ高聲ノ談話、爭論、角觥、口笛、放歌、其他騷擾ニ涉ルノ所爲ヲ禁ス

第二十七項 諸整列ノ時ニ後ルヘカラス若シ病氣ノ爲メ整列シ能ハサルトキハ定時間前ニ其旨舎長ヘ願出ツヘシ

第二十八項 碁、將棋或ハ骨牌ノ如キ遊嬉ヲ禁ス

第二十九項 校内ヘ猥リニ商人ヲ引入ル、コヲ禁ス

第十三章 舎長心得

第四十七條 寄宿生徒ヲシテ舍則ヲ實行セシメ舍内ノ整頓及ヒ清潔ニ注意セシメ不都合ノ所爲ナカラシムル爲メ舍長副舍長各一名ヲ置ク

第一項 舍長ハ本校職員及ヒ教員ノ推薦ニ依リ校長之ヲ認可スルモノトス

第二項 舍長ハ喫飯ノ節ハ食堂ノ靜肅ニ注意シ苟クモ粗忽ノ行爲アラシムヘカラス

第三項 舍長ハ寄宿生徒ヲシテ舍則第十九項ニ照シ總員整列ヲ爲サシメ人員ヲ調査ス

第四項 舍長ハ報告簿ヲ製シ寄宿生ニ係ル一切ノ事ヲ記シテ日々生徒監ニ差出スヘシ

第五項 舍長ハ寄宿生ニシテ舍則ニ違フモノアレハ之ヲ糾問シ口供書ヲ調製シ生徒監督ニ差出スヘシ

第六項 舍長ハ就寢ノ號笛ヲ聞クトキハ各室ヲ巡リ「ランプ」火鉢等火ノ元ヲ嚴重ニ取締ルヘシ

第一號書式

願書式 (用紙美濃紙)

入學願書

其 私儀海軍兵學校(或ハ海軍機關學校)へ入學志願ヲ以テ御校本科第何

年級(豫科)へ入學仕度ニ付別紙履歷書相添此段願上候也

年月日

府下住所

姓

名

印

海軍豫備校御中

履歷書式 (用紙美濃紙)

履歷書

原籍何府何國何郡何町何番地

何誰(男)族籍



一 英學何府縣何町何村何學校ニ於テ(或ハ何ノ誰ニ就テ)何年何月ヨ  
 リ何年何月迄修業用書何々  
 一 數學(同上)  
 一 漢學(同上)  
 右之通相違無之候也

姓 名  
 何年何月生  
 本年何年何ヶ月  
 右 姓 名 印  
 年 月 日

第二號書式

在學證書式 (本證書用紙及印鑑用紙ハ本校ヨリ附與ス)

在學證書

印紙

原籍及現住居  
 族籍 姓 年 月 日 名  
 右者今般海軍兵學校(或ハ海軍機關學校)へ入學志願ヲ以テ御校へ入

其

二

一  
 學仕候上ハ御校規則堅ク爲相守可申ハ勿論漫ニ退學爲致間敷候且ツ  
 本人ニ係ル一切ノ事件ハ悉皆拙者引受可申候在學證書仍テ如件  
 年 月 日 保證人 姓 名 印  
 海軍豫備校長何誰殿

印鑑

實印

見留印

何誰身元保證人  
 住所番地 何

誰

其 二

第三號書式

休學願書式 (用紙半紙)但シ正副貳通ヲ要ス

休學願

私儀何々(昇學シ難キ事由、疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ)ニ付向テ何  
 週間休學致度此段願上候也  
 第何年生

年月日

何

誰

印

海軍豫備校長何誰殿

前書何誰休學出願ノ趣事實相違無之候也

保證人

何

誰

印

第四號書式

入舍願書式 (用紙半紙)

入舍願

第何年生(又ハ豫科生)

何

誰

右ノ者御校寄宿舎へ入舎爲致度此段願上候也

保證人

何

誰

印

年月日

海軍豫備校御中

第五號書式

在舍證書式 (用紙半紙)

在舍證書

印紙

私儀在舍中ハ御校則ハ勿論臨時ノ揭示堅ク遵守可仕候也

何府縣何國何郡何町何番地族籍何某長次男或ハ戸主

年月日

本人

何

生

年

月

誰

右何誰儀御校在舍中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者引受ケ聊御迷惑相掛申間敷候殊ニ本人ニ於テ學資金延滞之アル節ハ直ニ拙者ヨリ完納可仕候依テ保證如件

東京市何區何町(何丁目)何番地族籍

年月日

保證人

何

誰

印

海軍豫備校長何誰殿

東京市麴町區元園町二丁目四番地 海軍豫備校

勅令第二十四號

(明治二十九年三月十四日)

陸軍管區表

師管聯隊區		警備隊區		管		府		縣	
本郷	宇都宮	佐倉	水戸	麻布	横濱	高崎	長野	本郷	宇都宮
東京 本郷區淺草區下谷區 南葛飾郡本所區深川區 區南足立郡北葛飾郡	栃木 茨城 眞壁郡結城郡岡田郡 田郡猴島郡西葛飾郡	千葉 茨城 眞壁郡結城郡岡田郡 田郡猴島郡西葛飾郡	茨木 水戸市東茨城郡西茨城郡 那珂郡多賀郡久慈郡鹿 島郡行方郡新治郡筑波郡 信太郡河内郡北相馬郡	東京 麻布區麴町區神田區日本橋區 東京橋區荏原郡南 東京豐島郡赤坂區四谷區小石川區 牛込區芝區東多 摩郡西多摩郡南多摩郡北多摩郡 伊豆七島	神奈川 横濱市久良岐郡鎌倉郡三浦郡 大往郡海老名郡 高座郡愛甲郡津久井郡足柄上郡 足柄下郡	群馬 埼玉 入間郡高麗郡比企郡橫見郡秩父郡 兒玉郡 賀美郡那賀郡大里郡榑羅郡 榛澤郡男衾郡	長野	北足立郡南埼玉郡 北葛飾郡新座郡	北葛飾郡新座郡

第 一		第 二		第 三		第 四	
長野	高崎	横濱	麻布	水戸	佐倉	仙臺	小笠原島
長野	群馬 埼玉 入間郡高麗郡比企郡橫見郡秩父郡 兒玉郡 賀美郡那賀郡大里郡榑羅郡 榛澤郡男衾郡	神奈川 横濱市久良岐郡鎌倉郡三浦郡 大往郡海老名郡 高座郡愛甲郡津久井郡足柄上郡 足柄下郡	東京 麻布區麴町區神田區日本橋區 東京橋區荏原郡南 東京豐島郡赤坂區四谷區小石川區 牛込區芝區東多 摩郡西多摩郡南多摩郡北多摩郡 伊豆七島	茨木 水戸市東茨城郡西茨城郡 那珂郡多賀郡久慈郡鹿 島郡行方郡新治郡筑波郡 信太郡河内郡北相馬郡	千葉 茨城 眞壁郡結城郡岡田郡 田郡猴島郡西葛飾郡	宮城 仙臺市宮城郡柴田郡刈田郡伊具 田郡玉造郡遠田郡桃生郡牡鹿郡 信夫郡安達郡安積郡岩瀬郡南會津郡 北會津郡 耶麻郡河沼郡大沼郡東白川郡石川郡 田村郡菊 多郡磐前郡磐城郡檜葉郡標葉郡 西白河郡 新潟 新潟市南蒲原郡北蒲原郡中蒲原郡 西蒲原郡東蒲原郡岩船郡古志郡 刈羽郡三島郡北魚沼郡南魚沼郡 中魚沼郡東頸城郡中頸城郡西頸城郡 新潟 刈羽郡三島郡北魚沼郡南魚沼郡 中魚沼郡東頸城郡中頸城郡西頸城郡 佐 渡 新潟 雜太郡羽茂 郡加茂郡	小笠原島 東京 小笠原島

